

学園だより

National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College



第92号

令和7年3月発行

都城工業高等専門学校
広報委員会

Contents

●巻頭挨拶	1	●特集Ⅳ こちら後援会	29
●学内動向	2	●新旧学生会長挨拶	31
●ようこそ学生相談支援室へ	4	●学内トピックス	32
●着任挨拶	5	●高千穂寮トピックス	35
●退任挨拶	9	●学生表彰	37
●卒業記念・修了記念	10	●国際交流トピックス	39
●特集Ⅰ 文化祭	22	●少年少女科学アカデミー	41
●特集Ⅱ こちら在校生	25	●主な就職・進学内定一覧	42
●特集Ⅲ 60周年記念事業	27		

令和6年度を振り返って

校長 田村 隆弘



本校創立から60年の時が過ぎようとしています。60周年記念事業や九州沖縄地区高専ロボットコンテスト等々、ご支援ご協力ありがとうございました。

■60周年記念事業

昨年（2024年）11月5日の午前に開催した都城高専60周年記念式典は、本校の60年を振り返るスライド上映で始まりました。創設期に何もないところから学校を作り上げていく教職員と学生、学校施設も充実してくると様々なクラブ活動などで結果を出し始める学生、そして、学校が円熟してくると、コンテストや国際会議や学会活動でも活躍する学生が出てきます。校長式辞では、学生たちに「これらは先人たちのプロジェクトXでした。これからは私たちのプロジェクトXです。」と語りかけました。

式典に続いて、北海道でロケット開発に情熱を燃やしておられる植松努さんの講演。夢や人生の困難さについて学生と同じ目線でお話いただきました。講演の後、限られた時間でしが元気の良い学生からの質問にも丁寧にご対応いただきました。

そして、この日のクライマックスは、都城市総合文化ホールを借り切ったの和田太鼓エンターテイナーDRUM TA0のコンサート。フィナーレでは、本校応援団の学生が登壇し、まさに会場が一つになって盛り上がりしました。締め括りの挨拶は、学生会長の山下源さん。

「都城高専に来て良かった。」とお礼を述べてくれて、大きな拍手が湧き上がりました。

■九州・沖縄地区高専ロボットコンテスト

高専の代名詞にもなっている「アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト」。今年度は、本校が九州沖縄地区大会を主幹して、2024年10月13日（日）に早水公園体育文化センターで開催されました。今年のテーマは、「ロボたちの帰還」。まさに月や火星の探査活動などを想定した極めて困難なミッションでした。本校のBチーム「ぶっとび！ベジタブルs」は、最初の投げ飛ばす作業で満点を出すなどしてベスト4まで進出しました。残念ながら全国大会出場は叶いませんでしたが、Bチームはデザイン賞、Aチーム「ねこ発シャー」も特別賞「マブチモーター株式会社」を授与されました。

来年こそは、捲土重来。都城高専の底力を見せてくれるでしょう。

■混住型学生寮新営工事竣工

令和に入ってから始まった学寮（高千穂寮）の新営工事

がいよいよ竣工を迎えました。国際寮の新営（R3.6竣工）から始まり、寮管理棟新営（R4.3竣工）、高千穂寮第1棟（R5.2竣工）、同第2棟（R6.2竣工）、そして、同第3棟（R7.3竣工）と、関係者のご尽力で着々と工事が進みました。この間、工事の都合上、寮生には様々なご苦勞をお掛けして申し訳ありませんでした。

今回の工事で、学寮の全てが新しくなると同時に、個室（一人部屋）の数も大幅に増えています。今後は、国際寮を活用して、本校のグローバル化も推進したいと思います。

■教職員行動規範

学生たちの学びを支援する教職員として、誠実に教育研究業務に向き合うことを宣言する「都城高専教職員行動規範」を制定しました。物質工学科の山下教授に取り纏めをお願いし、教職員全員の声を聞きながら作成しました。内容は、1)高等専門学校としての人材育成、2)法令遵守、3)人権の尊重、4)資産等の適正な管理、5)情報公開と情報管理、6)教育・学習環境及び職場環境の構築といった項目からなり、これらを遂行するための活動計画も別に示しています。

行動規範は学内にも掲示し、我が国の将来を支える人材を育成する者として、責任ある行動をとり自己研鑽に努めてまいります。

■後援会活動へのお礼

今年度も有馬会長を始め後援会の皆様には、大変お世話になりました。4月には「いのちの講話」を企画いただき、保護者の皆さんと一緒に研修を受けさせて頂きました。また、6月には新たに後援会主催都城高専生アイデアコンテストを開催し、学生の創造力の育成をご支援いただきました。秋の文化祭では伝統のカレーうどんの提供、そして、昨年度に引き続き、学内の環境整備などご尽力いただきました。様々な形で本校をご支援頂き、本当にありがとうございます。

■おわりに

学校として還暦を迎えましたが、還暦には生まれた年に戻るという意味があります。ここで初心に還り、また新たな時代に相応しい学校づくりに取り組んで参りたいと思います。

学内動向

1年を省みて

教務主事 土井 猛志



教務主事2年目となった今年度について、各種学校行事や日々の学校運営に関し、教務的立場で携わったことを基に1年を振り返ってみたいと思います。

まず、今年度は、昨年度のような台風等の自然災害により、都城圏域が大きな影響をあまり受けることなく、また、コロナやインフルエンザ等により学級閉鎖や休講措置等の対応を余儀なくされることがありませんでした。しかしながら一方で、宮崎県では南海トラフ地震をイメージさせるような大きな地震がありました。これについて、今後南海トラフ地震等が発生した場合に、学校関係者全員の安否確認を含め学校全体としてどのように対応する必要があるかなど、体制整備の早急な構築が重要な課題として残されました。また、局地的な線状降水帯による大雨や洪水警報の発令などにより交通手段が断たれ、授業に参加できない学生が多数いることについて、各教科担当の先生方には授業の遅れが出ないよう個別に対応していただきましたことは、学生のみならず教務関係の責任者として厚くお礼申し上げる次第です。今後は、遠隔授業等の利用も含め何らかの方法で全学的に対応していく必要があると考えています。

まだまだ省みることは沢山ありますが、学生の皆さんがより良い学習環境の中で学んでいけるよう、教務指導部として取り組んでまいりますので、今後ともご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

更なる感動と感銘の1年に

学生主事 永松 幸一

今年度は、本校創立60周年を迎えるとともに、隔年での開催となる高専祭（2日間）、10年振りのロボコン九州沖縄地区大会主管、学校後援会主催による新たな事業など、非常に活気あふれるイベントが数多く実施されました。

特に、高専祭における吉本興業所属の芸人さんのライブでは、会場となった第1体育館には今まで見たことのない人数で埋め尽くされ、大いに盛り上がったこと、地元開催のロボコン地区大会では、参加した全学生の熱い競技に感動するとともに、本校学生や教職員の協力による準備や片付け等、裏方で大会を献身的に支える姿に感銘を受けました。

課外活動においては、少林寺拳法女子自由単独演武の部における個人インターハイ出場、ロボコン地区大会ではベスト4進出およびデザイン賞の獲得があり、学外コンテストやシンポジウムでの各賞受賞も多数あり、様々な分野で大いに学生が能力を発揮しています。

来年度は、夏から秋に九州沖縄地区高専体育大会（陸上競技・ソフトテニス・バドミントン・水泳・ハンドボール・ラグビー）、冬に全国高専体育大会（サッカー）を主管します。会場は都城市や宮崎市が中心となり、2027年本県で開催される第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会メイン会場等も利用予定です。この体育大会を中心に、学生・教職員・保護者の皆様・地域の皆様と大きな輪となり、日々感動や感銘を共有できるよう、教育活動を進めていきたいと考えております。



新生高千穂寮の幕開け

寮務主事 若生 潤一



令和3年度から始まった高千穂寮全棟の建て替え工事は、令和7年3月末にようやく終わります。令和6年度は全ての寮生が新しい建物、設備、居室を利用できるようになった最初の一年でした。新しくきれいな施設、設備を未来の入寮生達に残していくためには、共有スペースおよび居室の破損や汚損の定期的なチェックと修繕が欠かせません。寮生の皆さんは入退寮時のこのようなチェックに積極的に協力してくれています。どうもありがとうございました。

令和5年5月に新型コロナが「5類感染症」に移行してから1年以上が経過し、まだ警戒が必要であるとはいえ、ほぼコロナ禍前と同様の寮生活に戻ることができたのは幸いなことでした。前年度11月から活動している前期の寮生会役員には、清掃活動の定着や寮評議会の復活、第1棟棟長の選出など、今後の寮生会活動につながる基盤を構築してくれました。また、寮生会行事である新入生歓迎会、寮祭、寮マッチ、（夜間ハイクの代わりに行った）花火大会、クリスマス会などを入念な準備の下で行い、寮生の交流と一体感の醸成に尽力してくれたことについて、寮生会役員、寮祭実行委員、および協力していただいた寮生の皆さんに深く感謝いたします。

令和7年度4月から管理棟、第1、2、3棟、国際寮の各棟からなる新生高千穂寮の運用が始まります。新しいルールを決めたり、設備上の問題点に対応したりすることが多くあると思いますが、寮生の声に耳を傾けながら取り組んでいきたいと考えています。

学内動向

総務企画主事の仕事について

総務企画主事 清山 史朗

令和6年4月より新しく設置された総務企画主事となりました物質工学科の清山です。新しく設置されたこともあり、総務企画主事という役職を初めて聞かれる方も多いかと思います。具体的にどのような仕事内容か、担当している委員会を列举すると、FD委員会（研修関係）、自己点検評価委員会、将来計画検討委員会、男女共同参画推進委員会、認証評価・KIS対応委員会、リスク管理室、予算専門委員会、ハラスメント防止委員会、その他ワーキンググループとなります。こうしてみると学生と接する機会はほぼない委員会ばかりですが、学校を裏から支えるという仕事になります。この内、本校は来年度に国立高専教育国際基準（KIS）の評価を受審する予定です。KISという言葉も初めて聞くかもしれませんが、本校はこれまでJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けていますので、JABEEは聞いたことがあると思いますが、KISはその本科版といったところです。JABEEの対象が本科4年生から専攻科5年生であるのに対し、KISの対象は本科1年生から5年生までの教育等に関する事項が評価を受けます。その内容はわかりにくいかもしれませんが、1. 学習・教育到達目標の設定と公開をしているか、2. 様々な教育手段が適切であるか、3. 学習・教育到達目標の達成を確認しているか、4. 教育改善をしているかの4項目となります。学生、教職員の皆様には実地審査で面談のお願いをすることになりますが、ご協力、よろしくお願いいたします。



都城での研究・地域連携

研究・地域連携主事 岩熊 美奈子

令和6年度に研究・地域連携主事という役職が設置され、4月から主事を拝命している物質工学科の岩熊美奈子です。都城高専での研究活動および地域連携について活動をしています。この2件のテーマは融合することも多く、地域を拠点に研究活動をされている先生方も多くいらっしゃいます。令和6年の大きなトピックスは、宮崎空港ビル株式会社様との包括連携協定を締結したことです。その内容の1部として「宮崎空港内にあるフェニックスの木から剥がれ落ちてくる幹の皮を危険なく回収できるロボットの開発」です。近い将来、宮崎県の木に認定されたフェニックスを、都城高専発のロボットがお手入れをすることになるでしょう。その他、本校では第2回都城高専・ビジネスプランコンテストの実施を予定しています（12月現在）。今年度参加できなかった学生は、ぜひ次年度以降の参加を準備してください。本校の学生が1名でも参加していれば、他校の高校生や大学生、OBなどどなたでもチームが組めるようにしていて、いろいろな方々と協同してコンテストに挑めるような開催方法にしています。また、地域連携テクノセンターでは、各種イベントを実施し、学生さんの研究活動、アントレプレナーシップの育成や新規事業の開発、立ち上げを応援しています。チャレンジはその多くが失敗に終わることが多いです。しかし何度失敗しても立ち上がる環境を作っていける学校でありたいと願います。



専攻科、飛躍への準備

専攻科長 野口 大輔

令和6年4月より専攻科長を拝命致しました物質工学科の野口と申します。専攻科は、2002年に設置され、本校専攻科教育の大きな特徴である「生産デザイン工学」プログラムは、2005年に日本技術者認定機構に認定されて今年で20周年を迎えました。本プログラムは、本校の教育理念に基づいた4年間の教育プログラムであり、各専門工学ばかりでなく、それらの専門分野が融合した幅広い工学領域でも活躍できる実践的技術者を育成できるように構成されています。さらにJABEEにも対応できるように作られており、これまでに4回のJABEE認定継続審査等を受け、現在は令和8年度まで継続してJABEE対応プログラムとして認定されています。

また、令和5年度より本校の専攻科に設定された「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムコース」の初めての修了生が本年度誕生します。本コースは、九州大学工学部「融合基礎工学科」と九州沖縄地区9高専の各専攻科との連携校にて修学する履修プログラムコースです。履修者は九州大学と連携高専専攻科の双方に在籍することになります。教育内容の高度化を図り、現在社会が抱える複雑で多様な課題を解決し、グローバル社会の持続的発展に貢献できる創造力豊かな高度実践的技術者・研究者の育成を目的としています。プログラム所定の課程を修了した学生は、九州大学からの卒業証書（学士の学位記）ならびに高専専攻科から専攻科修了証書とJABEE修了証が交付されます。

このように魅力ある専攻科としてさらに飛躍する準備は整いつつあります。今後も学生にとってより良い魅力ある専攻科づくりを展開して参ります。



ようこそ学生相談支援室へ

学生相談支援室から

学生相談支援室長 田村 理恵

皆さん、こんにちは。皆さんは学生相談支援室を利用したことがありますか？それ以前に、どこにあるか、何をしているか知っていますか？名前から、学生の相談にのってくれるのだろうかという予想はつくと思います。でも、どんな相談にのってくれるんだろう。なんでもいいってわけではないよね・・・とか、考えてしまいませんか。でも、どんな相談でも大丈夫です。気軽に相談してください。

【学生からの相談】

進路相談、生活習慣の問題（ネットに時間を割きすぎている気がする、授業に集中できない、朝起きれない）、学校に関する問題（レポート、課題にうまく取り組めない、部活や学生会活動について）、人間関係（友人関係、家族との関係、先輩後輩関係、先生との関係、など）なんでも相談してください。このページの下にある連絡先にどの方法でもいいのでアクセスしてみてください。その相談に相応しいスタッフと話せるようにします。そのために、本校では、学生相談支援室に、教員である相談員だけでなく、保健室の看護師さんも所属しています。看護師さんたちは保健室に常駐していますので、話しに行ってみてください。学校内の人には話しにくいことであれば、外部から来てもらっている専門家もいます。心の専門家である臨床心理士2名がスクールカウンセラーとして来てくださっています。また、福祉の観点から問題解決を目指す社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーも1名、定期的に来校してもらい、学生や保護者の相談にのってもらっています。皆さんからの相談があると、誰に相談した方がいいかを学生相談支援室で考え、時間を設定して相談に来てもらいます。もちろん、みなさんが、この人がいいと指名してくれても大丈夫です。現在では、Teamsを使ったオンラインでの相談も受けています。自分だけで考えると考え方が

偏ってしまうこともあります。他の人に話を聞いてもらうだけでも気が楽になることがあります。それも専門家に話を聞いてもらえるのです。もちろん、皆さんから聞いた話は他の人には漏らしません。悩んだ時には気軽に学生相談支援室に連絡して下さい。

学生相談支援室では「こころと体の健康調査」や「学校適応感尺度調査」も行っています。気になることはそこに書いて貰えば、こちらから連絡させてもらいます。とはいっても、直接連絡を取ってもらるのが一番早く確実です。

【保護者からの相談】

学生相談支援室という名称ですが、対象は学生だけではありません。学生に関する相談を保護者の皆様からも受け付けています。「最近、子供があまり話をしてくれなくなった」「ゲームばかりしているので、心配」「成績が伸びない」など、子育ての不安があると思いますが、そのような相談は遠慮なく学生相談支援室をご利用ください。ご自宅が遠い場合でも、学生と同様、オンラインでの相談も受け付けています。本校は高等専門学校という、基本的に各県に1校しか設置されていない学校です。学校の仕組みも高校や大学とは違います。保護者の方も戸惑いがあるのが当然です。なのに、特殊であるが故に、簡単に地域の人や親戚に相談しにくい、事情をわかってもらえないという事情もあるかと思います。そのような時には、ぜひ学校にご相談ください。高専という学校の仕組みをわかった心の専門家、福祉の専門家をご相談に応じます。ぜひ、迷ったら連絡してみてください。皆様からの相談をお待ちしています。

学生相談室の利用について

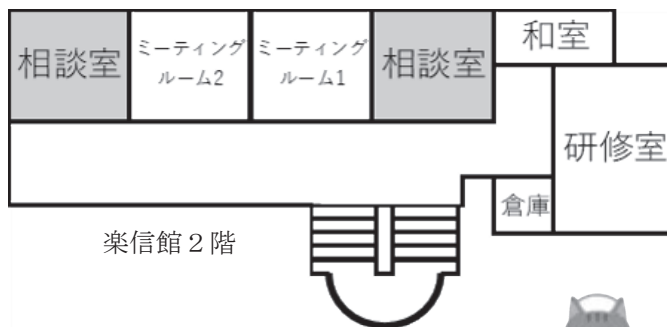
毎日の生活の中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合っていきましょう。

相談の申込は以下の方法で受け付けています。

- ・直接スタッフへ：田村室長、武田相談員、看護師に声をかけてください。
- ・電話による申込：0986-47-1156（保健室）
- ・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-nct.ac.jp

悩み多い学生生活です、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になりますよ。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。待ってます。

相談室の場所はこちら



着任挨拶

着任の御挨拶

令和6年4月に機械工学科に着任いたしました藤田健太郎と申します。

私は令和3年度に本校専攻科（機械電気工学専攻）を修了し、九州工業大学で修士号を取得したのち、本校に教員として戻ってきました。数年前までは本校の学生として授業を受けていたわけですが、本年度からはその授業を提供する側となりました。学生の頃の自分を思い出し授業準備等に取り組んでいますが、わかりやすく伝えることの難しさを日々感じています。また、学生の頃に5年間所属していた水泳部の顧問となり、顧問という立場から様々な活動に関わらせていただいています。高校総体や高専大会等に向けて頑張っている部員の皆さんの姿からはたくさんパワーをもらいました。

私は「制御工学」という分野を専門として研究活動をしています。ざっくりとえば、世の中のあらゆる「動くモノ」（機械・ロボット、情報・通信、経済、生物、気候など）を効果的に操る方法論を追究する学問です。これまではPC上でのシミュレーションなどの理論研究を主に行ってききましたが、今後は研究室の学生たちと一緒に実際の機械やロボットなどへの応用研究も行っていきたいと考えています。

未熟な面が多々あり、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、学生の皆さんにとってより良い学習の機会を提供できるように努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



機械工学科
藤田 健太郎

着任挨拶

令和6年4月に一般科目文科へ着任しました吉岡佑馬と申します。担当科目は4年生の国語・中国文化論ならびに専攻科の文章表現法です。

出身地は大阪です。下町育ちで言葉遣いも品行も褒められたものではありませんが、大学時代を通していくぶんか矯正されたのでしょうか。

大学は学部の2年間は京都の龍谷大学に在籍し、3年次に編入で広島大学へ移りました。そこから、広大の博士課程までずるずると進学し、現在も博士課程に在学中です。指導教員に尻を叩かれながら今年度中の博士学位取得を目指しています。

大学での専門は、中国思想です。思想といっても恣意的に古典を解釈するのではなく、ある思想の成立やその成立背景について、100人が100人そうだと認めざるを得ない根拠を提示することを目指す実証的な研究を行っています。というとかっこいいのですが、ありていに言えばそういう作業が「おもしろい」という感覚でやってただけで、あまり研究という感覚はありません。ただ、こういう場面ではやや上擦りながら「けんきゅう」という言葉を使っています。

都城高専に着任し、早一年が経過しようとしています。皆さまのお力添えもあり何とか走り切ることができました。来年度からは「新任教員」という若葉マークもはずれてしまいますので、より一層精進したいと思います。

まだまだ至らぬ点ばかりですので、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。それは、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



一般科目
吉岡 佑馬

着任の御挨拶

令和6年4月に一般科目に着任いたしました愛甲将司と申します。都城高専では物理を担当しています。私は令和4年3月に大阪大学で博士号を取得し、令和4年4月から2年間、茨城県の高エネルギー加速器研究機構で日本学術振興会の特別研究員として勤務してきました。公立高校の出身なので、高専がどういった場所なのか通り一遍の知識しかありませんでしたが、日々の授業や行事を通じて、少しずつ都城高専に馴染んできた気がしています。

私の専門は素粒子物理学です。素粒子は物質を構成する最小単位であり、その振る舞いは素粒子の標準理論とよばれる枠組みでうまく記述できます。しかしながら、宇宙観測などによって素粒子の標準理論では説明できない現象がいくつか発見されており、これらを説明できる新理論の探求が行われています。素粒子物理学は、宇宙進化の歴史や物質の起源などを研究対象としており、面白い知見がたくさんあります。物理の授業で取り扱う標準的な内容だけでなく、そこから飛び出した発展的な内容も交えることで、学生の皆さんの好奇心を育める授業を行っていきたいと思っています。

高専教員として、まだまだ至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思います。学生の皆さんの成長に少しでも貢献できるよう、日々精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



一般科目
愛甲 将司

着任挨拶

着任のご挨拶

令和6年4月に本校に着任いたしました。事務職員の増田 徹と申します。
生まれは大阪府で、高校まで大阪で過ごし、それ以後は、福岡市・北九州市を拠点に学生生活、社会人生活を送っております。
高専事務職員としての勤務は本年度で23年目、学校の事務職員としては30年目となります。
前校は大阪高専で、今まで、北九州高専、佐世保高専、前校の大阪高専と、本校で高専は4校目です。
入職当初は大学勤務でしたが、高専の学生の皆さんと高専の教育システムの素晴らしさ、先生方のお人柄にとっても感銘を受け、このような素晴らしい環境で働きたいと考え、平成13年以降、私自身の希望をかなえていただき、高専一筋、「高専最高!!」、という気持ちで高専勤務を続けております。
高専の学生の皆さんは、元気で、素直で、何事にも一生懸命で、難しい勉強や研究も頑張って、遊ぶ時も全力で遊び、メリハリのある楽しい学生生活を送っているなと羨ましく思っています。
私自身も学生の皆さんの元気な姿を見て、いつも元気をいただいています。
これからも高専の学生の皆さんが元気に楽しく本校での学生生活を過ごし、素晴らしい未来に繋がっていくように、また、教職員の皆様のために少しでもお役に立てるよう頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



事務部長
増田 徹

着任から11カ月が経過して

令和6年4月に総務課長として着任しました宮浦伸生と申します。宮崎大学との人事交流として勤務することとなりました。
39年前に鹿児島大学に技術職員として採用され、観葉植物や熱帯果樹の栽培を主に担当しておりましたが、事務職員として宮崎医科大学へ転勤し、宮崎大学を経て、都城高専に勤務することとなりました。
昨年の3月15日に都城高専の総務課長としての内示を受け、都城高専には行ったことも、見たこともなかったので、次の日の土曜日に、午前中にGARNEAUのロードバイクで往復（約90km）して、午後YAMAHA XSR125のバイクで往復して、4月から勤務する管理棟の玄関前で、無事に務められますようにということを祈念して、記念撮影したことを思い出します。
間もなく1年になりますが、その間、本校で長年独自に培われた事務処理と大学で学んできた事務処理の違いに、対応を苦慮する場面もありましたが、皆様方のあたたかい人柄に救われながら、課長職は初めてということもあり、ご迷惑をおかけしたこともあるかと思いますが、教職員の皆様方へのリスペクトの気持ちを忘れずに、これまでの知識・経験を活かして、少しでも貢献できるように努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



総務課長
宮浦 伸生

着任挨拶

この度、ご縁をいただき令和6年7月1日付で宮崎大学からの人事交流にて学生課学生係に着任いたしました栗澤慎と申します。大学では医療系や総務系の業務に従事してまいりましたが、学生に関わる業務は今回が初めてでございます。
高専は、大学や高校と異なる部分が多く、馴染みがない業務内容に対して、正直なところ戸惑うことも多々あります。また、私自身が経験し学んできた高校・大学生活とも違った環境であり参考になることが限られている状況で、苦労することもあります。
しかしながら、大学で働いていたらおそらく経験することのない業務がいくつも常にある新鮮な驚きやたくさんの学びがあることや、これまでの労働生活では無かった学生との交流で、一種の充実感が得られどこか都城高専での業務を楽しんでいる自分もいる気がします。
まだまだ業務へ慣れておらず分からないことだらけで右往左往にてんやわんやしてしまっておりますが、学生課をはじめとして教職員の皆さまの温かく優しいサポートのおかげで、日々の業務をこなすことができいております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。
当然ながら、皆さまにいつまでもご迷惑をおかけするわけにはいきませんので、一刻も早く皆さまのお力になれるよう全力を尽くしてまいります。
今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



学生課学生係
栗澤 慎

着任挨拶

着任挨拶

令和6年4月に学生課学生係に着任しました大小田千夏と申します。

3月まで鹿児島高専にて勤務しておりました。同じ高専でも異なる業務が多く、質問してばかりの毎日ですが、何度尋ねても丁寧に教えてくださる周りの方々に恵まれ、日々充実した毎日を送っています。

学生係の業務は課外活動関係や奨学金の手続きなど多岐にわたります。通常の業務に加えて、令和6年度はロボコンの担当校でもあり、私にとってすべての業務が初めてで大変なことも多くありましたが、貴重な経験をさせていただきました。私が担当している業務の一つに就職関係についての業務があるのですが、進路選択に直結する就職活動を支える業務に携わることができ、やりがいを感じるとともに身に引き締まる思いです。学生の後悔の無い進路決定をサポートし、企業と学生を繋ぐ一助となれるよう微力ではありますが前向きに業務に取り組んで参りたいと思います。

まだまだご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様の力になれるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



学生課学生係
大小田 千夏

着任挨拶

令和6年7月に着任しました池田卓史と申します。

この度、縁あって都城高専にて働かせていただくこととなりました。

社会人1年目ということもあり、不安な面もございましたが、周りの皆様に支えられ、大変充実した日々を過ごしております。未だに質問ばかりで、ご迷惑をおかけしておりますが、優しく丁寧に業務についてご指導くださる周りの皆様には感謝の念に堪えません。

総務課契約係では、物品の発注や立替払いの処理を担当しております。

物品の発注については、学生の皆様や先生方の授業や学校生活に直接関わるものであり、立替払いについては教職員の皆様のお財布に直接関わる業務のため、どちらも細心の注意を払い、業務に励んでおります。

未だ多くの方に支えられている立場ではございますが、同時に、学生の皆様や先生方を支える立場であることを自覚し、常に緊張感を持って日々精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



総務課契約係
池田 卓史

着任挨拶

令和6年10月に総務課財務係に着任した渡辺稜太です。大学卒業後少し遅れての就職となりましたが、ご縁あって都城高専で働かせていただき大変嬉しく思います。初勤務より数カ月が経ちますが、社会人としても職員としてもまだまだ未熟な面が多く緊張の日々が続いております。

財務係では主に支払の業務を担当しています。伝票の監査や作成をしながら過ごす毎日ですが未だにわからないことが多く、周りの方々の支えには非常に助けられております。財務係の性質上お金を扱う業務が多く、それに伴う責任の大きさを日頃の業務を通じて実感します。しかしその反面、仕事のやりがいも非常に大きいです。先生方や学生さんと直接かかわる機会はあまりないですが、皆さんが滞りなく学校生活を送れるように少しでも力添えできればという思いで仕事に励んでいます。今は毎日が勉強の日々で、社会人の大変さを痛感していますが、周りの皆さんに支えていただき非常に充実した一日を送ることができています。本当に感謝しています。

新年に入り総務課では組織の改編が行われ、財務係として自分が新たに担当する業務も増えてくると考えられます。これまで以上に頑張らなければなりません、自身の成長の良い機会だと思い、業務に臨めたらと思います。

都城高専を支えていくために日々精進しますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



総務課財務係
渡辺 稜太

着任挨拶

着任のご挨拶

令和6年2月に技術教育支援センターに着任しました近藤と申します。
私は本校機械工学科を平成31年3月に卒業後5年間民間企業で働いており、この度本校に戻って参りました。

民間での仕事内容は、FPD(半導体系)露光装置の据付業務を行っており累計600日ほどの長期海外出張など様々なことを経験しました。超精密機器である露光装置の据付では技術面、海外出張の仕事では精神面の両側面から鍛えられた5年間でした。

久しぶりに帰ってきた母校はどこか懐かしく、仲間と過ごした楽しかった思い出やほろ苦い経験が呼び起こされました。また私の在学中よりも学生の活気を感じ、校内で会う学生からの挨拶の素晴らしさには感銘を受けました。

今年1年間は機械工学科の工作実習や基礎実験、工学実験、公開講座等に携わらせて頂きました。前職とは全く異なる業種のため、毎日が新しいことの連続で戸惑いや様々な壁に悩まされましたが、在学中からお世話になっていた教職員の方々をはじめ、様々な方々にサポート頂き、無事1年が過ぎようとしています。この場をお借りして御礼申し上げます。

私自身まだまだ未熟であり、技術も乏しいですが諸先輩方の背中を追いつき追い越せるよう日々努力して参ります。まだまだご迷惑等おかけすることもあるかと思いますが、これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



技術教育支援
センター
近藤 芳崇

着任挨拶

令和6年4月に技術教育支援センターの技術職員として着任致しました内村 映葵(うちむらえいき)と申します。主に機械工学科の実習や実験を担当させて頂いております。昨年の3月に本校を卒業し、同年4月に着任して早くも1年が経とうとしています。職員となって初めてのことで、毎日尋ねるような日々でしたが、周りの方々に支えられ、なんとか1年を終えることができました。心から感謝申し上げます。

また、職員となり、学生のときに行わなかった新たな技術、指導する立場となってわかる戸惑いや教えることへの難しさを感じました。この1年間を振り返って、失敗したことは次に生かし、上手くいったことは自信にして、来年度はさらなる技術や指導力を高めていきたいです。

私の趣味は、健康目的で始めたランニングです。目標として思い切って12月に開催された青島太平洋マラソンのフルマラソンに参加しました。初めて参加しましたが、ボランティアとして運営を支えていた高校生、沿道で応援して下さる声援の温かさに涙が込み上げました。完走したときは達成感でいっぱいになり、今年も参加したいと思いました。

最後になりましたが、着任時は右も左もわからず、不安な気持ちでしたが、今では業務へのやりがいや楽しさを実感できるようになりました。しかし、まだまだ未熟でミスしてしまうこともあり、周りの方々には支えられてばかりですが、お役に立てるように精一杯頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



技術教育支援
センター
内村 映葵



退任挨拶

退任挨拶

昭和60年（1985年）4月に本校に着任して以来、一般科で英語およびドイツ語の担当として勤務してまいりましたが、本年3月をもって再雇用終了となり教員生活にピリオドを打つこととなりました。小生が赴任した昭和60年は入れ替わりの年であったようで、8名の新任教員が新たに都城高専の教壇に立つこととなりました。そのうちの2名、工業化学科（現物質工学科）の森茂先生と建築学科の須田先生は本校出身で、本校就任後早くから教育・研究にご活躍されましたが不幸にしてお二人とも逝去されました。機械工学科には長瀬先生、山中先生が加わり、一般科目では法学の木村先生と小生がそれぞれ社会科系科目、外国語系科目を担当となりました。2年目からは低学年の担任を任せられ、以来担任や主事補などの業務に微力ながら力を尽くしてまいりました。赴任当時8名だった同期で残っているのはいつの間にか小生1名となりました。

小生が高校時代までを過ごした神奈川県には国立高専が存在せず、赴任時には高専についての予備知識がほとんどありませんでした。高校と大学の2面を併せ持った高専という制度の特性にまごつきながらも40年間、さまざまな経験・体験をさせていただき、またドイツへの外地留学の機会も設けて頂き、大変感謝しております。また部活動で顧問を務めさせていただいた男子バレーボール部の全国高専体育大会初優勝も忘れられない思い出の一つです。

皆様のお力を借りながらここまで大過なく務められたことを心よりお礼申し上げます。最後に本校のますますの発展、皆様のご健勝を祈念いたしまして退任挨拶とさせていただきます。



一般科目

飯尾 高明

すべての出会いに感謝を

この3月末をもって退任することになりました一般科目の松川です。2017年4月に着任して以来、1・2年生の学級担任をそれぞれ2回ずつ、寮務主事補を3年分、またハンドボール部、剣道部、陸上競技部の顧問を経験させていただきました。

私は英語科教員として本校に採用されましたが、修士課程修了直後のことでしたので、着任当初は本当に右も左もわからないような状態でした。ついこのあいだまで学生だった自分が、今度は教員として学生さんたちの前に立つということで、ものすごく身が引き締まる思いがするのと同時に、大きな不安を感じていたのをいまでもよく覚えています。

やる気だけは十分だったと思いますが、何しろ経験がないため授業後は反省の連続でした。そういう状態が数年続き、試行錯誤をくり返していくなかで、自分なりの授業スタイルを確立するに至りました。ただし、形だけ築き上げはしたものの、どうすれば学生さんたち一人ひとりの英語能力を向上させることができるのか、英語学習にやりがいを見出してもらえるのかという本質的なところは、いまだに悩み続けて答えが出ません。

恥ずかしながら、世の中に高専というものが存在していることを私は大学生になるまで知りませんでした。文学や音楽に熱をあげていて視野がとても狭かったのです。それが縁あって都城高専の学生さんたち、教職員の方々と接する機会に恵まれました。これは私にとって生涯忘れられない思い出です。この思い出を胸に、退任後も自分の信じる道をしっかりと歩んでいきたいと思います。ありがとうございました。



一般科目

松川 兼大

退職にあたって

令和7年3月で本校を退職することになりました。2年間という短い期間ではありますが、多くの方々に支えていただき、充実した日々を過ごすことができました。

寮務主事補として寮の運営に携わる機会をいただき、組織の中で円滑に物事を進めるための立ち振る舞いを学ぶことができました。また、寮生の皆さんの成長を間近で見守り、その姿に感心すると同時に、自分自身の成長の必要性を改めて実感する機会にもなりました。寮務指導部の先生方、寮務係の皆さまには多くの場面で支えていただきました。本当にありがとうございました。

また、一般科目の先生方（特に数学・社会の先生方）、事務の安井さんにも大変お世話になりました。授業や業務の合間に交わした何気ない会話や、事務室のレンジの前での世間話など、ふとした時間がとても楽しく、大切な思い出となっています。

部活動でも、事務職員の皆さま、コーチの山下さん、保護者の皆さま、そして部員の皆さんのおかげで、円滑に運営することができました。部活動に打ち込む姿に大きな励みをもらいました。大会などで各地を訪れることができたのも良い思い出です。

授業を担当したクラスの皆さんにも、心から感謝を伝えたいです。授業を通じて皆さんと過ごした時間には私なりの思い入れがありました。それぞれの個性や可能性が今後ますます伸びていくことを楽しみにしています。

これから新たな道を歩むこととなりますが、ここでの経験を大切にしながら精進してまいります。皆さん、どうかお元気で。ますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。



一般科目

東根 一樹

卒業記念 ～機械工学科～

相変わらず激動の時代にあって

5年担任 高木 夏樹

皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、晴れてこの時を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

振り返りますと、縁あってこの2年、4年生から続けて5年生の担任を務めさせていただきましたが、当初は3年次までのコロナ禍での生活習慣の影響や成績面で正直不安な部分が少なくはありませんでした。しかし、そんな不安もよそに、コロナ禍の前と同じように皆さんは様々な活動に参加・チャレンジし、水を得た魚のように活躍してくれました。4年次当初の校内研修では、講演いただいたOBの方々のお話を真剣に聞き入り、OBを交えたグループディスカッションでも積極的に話し合う姿は印象的でした。夏季休業期間中でのインターンシップにもクラスのほとんどの学生が参加し、中には複数の企業や大学・研究機関で実習に励んだ学生もありました。現場の雰囲気を感じ、職場のエンジニアや大学の研究者・学生、OB・OGなどと直接触れ合えたことは自身の考え方・ものの見方に良い変化をもたらしてくれたのではないのでしょうか。学校行事でも、クラスの多くの学生が体育競技会や文化祭の実行委員などとして積極的に運営に携わり、準備に関わる様々な苦労やイベントを完遂した喜びと達成感を感じてくれたことと思います。文化祭の研究発表でも、「黒板消しクリーナーの改良」をテーマとして、短い準備期間にも関わらず試行錯誤を重ね、プロトタイプの製作から実験・評価、わかりやすい資料作成と発表までを見事に成し遂げてくれました。残念ながら入賞は叶いませんでしたが、諦めずに頑張りを通せたことは一つの大きな成長になったと思います。4年次の終わりには、例年どおり関西方面への工場見学旅行も実施できました。実質の修学旅行として、多くの思い出に残る経験ができたことと思います。5年次に入ってから進路選択においても、比較的スムーズに進路が決定していったように見えました。人手不足などで採用市場が活況なこともあります。それでも自身で企業や大学・専攻科への応募を決め、履歴書などの準備をし、面接練習などで多くの不備を指摘されつつもめげずに訓練・改善を行い、試験に臨んで勝ち取った結果です。もちろん、当初の志望先には残念ながら届かなかった学生や進路で戸惑い相談してくれた学生もありましたが、結果的にはクラス全員の進路が決まり、人生の大きな岐路において、目覚ましい成長を遂げたと感じます。5年生なってもクラスマッチや体育競技会の各部門で優勝するなど、学校行事で目覚ましい活躍を見せてくれました。応援演舞では惜しくも優勝できませんでしたが、この経験は後輩たちに良

い刺激を与え、来年への糧となるでしょう。

さて、これからのことですが、社会はDX化や医療技術、素材開発が急速に進み生活がより便利になっていく一方で、戦争・紛争など様々な対立も先鋭化し、社会の在り様が大きく揺らいでいる状況にあります。世の中は様々なものが情報化され保存されるようになってきていますが、不確実で不透明なことはむしろ増しているように見えます。学校のほとんどの試験のように明確で不変な答えが必ずあるというわけでもありません。このような時代において、ただ他人やAIの意見や成果をそのまま鵜呑みにしたり、何もしないまま過ごしていたりしていると、これまで以上に何もできない人、やりたいことが実現できない、生きづらい状況に陥る可能性が高いと言えます。これらを回避するためには、昔から言われているように、「よく（深く）考え」「行動を起こす（チャレンジする）」ことだと思います。また、困難に直面した際には、仲間（チーム）と相談（議論）することも重要です。もしそのような仲間がいなければ、「ならば、自分で創り出そう」という発想を持ってください。是非、AIでも本校の教員でも使えるものは上手に活用し、最後は自分で「決断」してください。そして、関わった全ての人や物事への感謝の気持ちを胸に、自信を持って未来へ羽ばたいてください。



卒業記念 ～電気情報工学科～

卒業によせて

5年担任 白井 昇太

電気情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまには、これまでの温かいご支援に心より感謝申し上げます。そして、皆さんが無事に卒業の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

皆さんが入学された2020年は、年明けから新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、3月にはWHOがパンデミックを宣言しました。4月には国内の感染者数が1万人を超え、学校としても感染拡大を防ぐための措置を余儀なくされ、皆さんは入学式の翌日から休講措置となる異例のスタートを切られました。

私自身、当時教務の仕事に携わりながら、未知のウイルスから学生を守りつつ、学びを止めないための方策を連日、多くの先生方と議論しました。その結果、Teamsを活用した遠隔授業システムを構築し、運用を行うこととなりました。本校では寮を有している事情もあり、市内の他校と比べて遠隔授業の期間が長く、この方針には賛否両論がありました。しかし、新型コロナウイルスの毒性が強まる状況下で遠隔授業を推進し、学内で重症化する学生を一人も出さなかったことは、学生の命を守るための適切な判断だったと考えております。一方で、当時低学年だった皆さんにとって、学校生活の基盤を築く大切な時期に、行事が制限され、学生同士の交流機会が大幅に減少したことは、教員としても悔やまれる点です。それでも、皆さんはこのような困難を乗り越え、日々を前向きに捉え、学業や自己成長に取り組まれてきました。その努力と適応力には心から敬意を表します。この経験を、単なる困難ではなく、乗り越えた自信と未来への力に変えていただければと思います。

現在、21世紀も四半世紀を迎えようとしていますが、この数十年で私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。情報化やグローバル化、多様化の進展、さらにはAIの普及など、急激な変化が続いています。これらに適応し、新たな時代を切り開く力が皆さんには求められていますが、時にその重荷を感じることもあるかもしれません。そのようなときには、「幸せのハードルを下げる」ことを意識してみてください。高い目標を持つことは素晴らしいことですが、目標ばかりを追求め

ると、幸せの基準も次第に高くなりがちです。大きな成果を追うだけでなく、日々の小さな出来事や何気ない喜びを大切にすることで、ポジティブな感情を保ち続けることができます。これは、エンジニアとしての発想力や行動力を高める基盤にもつながります。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、皆さんも好きなことに夢中になり、新しいアイデアを生み出した経験があるのではないのでしょうか。この「好き」という感情を大切にし、それを支えるポジティブな気持ちを育てることで、伸び悩んだときにも再び前を向いて進む力が得られると思います。

社会に出ると、誰しも一度は壁にぶつかることがあります。そのようなときには、日々の小さな幸せに目を向け、ポジティブな感情を取り戻しながら、少しずつ歩みを進めてください。そして、自分の人生が実りあるものだったと振り返ることができるような、充実した人生を築いてください。

改めまして、ご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が希望に満ちたものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。



卒業記念 ～物質工学科～

卒業によせて 一区切り、そして新たなステージへ

5年担任 高橋 利幸

物質工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

思い起こせば、皆さんの高専生活は多くの厳しい規制に振り回された5年間でした。皆さんが高専入学後に世界的にコロナ禍の体制に入りました。本校でも遠隔授業システムが始まったのが君らの1年生の頃でした。ただし、実質的に遠隔授業など確立されていない手探りの時期だったので、当初の遠隔授業は、作り手の私たち教員も大変でしたが、学生側も大変だったと思います。君らが低学年の頃は登校禁止期間もあったことを思えば、在学中に最終的に対面で高専祭、体育競技会やクラブ活動など様々な学校行事が平常に行え、君ら自身も高専生活の多くの思い出をつくったことは何よりです。コロナ禍の大変さはあったものの、本校の60周年記念イベントに最終学年として参加できたことは、前向きにとらえれば、入学のタイミングが結果的に良かったといえるかもしれません。

都城高専の学生にとって、文化祭での研究発表は大きなイベントの1つだと思います。実験方法が決められ、結果も予想できる学生実験と異なり、研究発表では、自分たちで社会的ニーズを調査し、やりたいことを見出し、研究方法を考え、文化祭本番でのプレゼンに向けて研究を組み上げます。4年当初からの綿密な研究計画と地道に継続して実施した実験の結果として、文化祭での入賞、そして、第3回都城高専地域交流・研究発表での深山会大賞を受賞したことは、このクラスとして大きな成果と自信になったと思います。ここで培った研究への姿勢は、5年生の卒業研究にも生かされていました。また、技術者として社会に出る皆さんは、チームで1つのプロジェクトに取り組む機会を今後経験すると思います。チームで計画的・効率的に物事を進めるにはどうすれば良いのか、それを先んじて経験したことは今後の大きな糧として生きると思います。

コロナ禍を通してICTの活用が一気に広がり、4年のインターンシップや5年の就職活動はコロナ禍以前と大きく変わりました。実際に、皆さんの就職活動も前年度より早期化し、応募から内々定を頂くまでが非常に早い学生（4年生

中）と従来通りの学生がおり、担任としても学生対応に配慮する時期が長くなりました。しかし、皆さんは社会の変化にしっかり対応し、自ら希望した進路をつかみ取ってくるところは、厳しい中でも自己研鑽を行い、成長した結果です。また、本校から実績のある進路だけでなく、これまで本校から実績のない進路に挑戦した学生も複数いました。本校としても「卒業生の活躍の幅を広げる」という観点では、良かったと思います。クラス全員の進路が無事に決まり、5年担任として最も大きな仕事を例年よりも早く終えられたことは、皆さんに感謝しています。



皆さんは専門知識と技術を有する技術者として社会に出ます。皆さんも実感している通り、一時期のコロナ禍での停滞を振り戻すように、早いスピードで社会は変わっています。技術に関わる皆さんは、その一端を担うこととなります。そして、皆さん自身、社会の変化に対応するために、日々成長が必要です。厳しい世の中ですが、安心して下さい。就職担当として企業の方々とお話を通して、改めて高専生が即戦力として期待されていることを実感しました。皆さんは、変化の厳しい社会を担っていける人材として見込まれています。専門知識や技術も大事ですが、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」そして「チームで働く力」のような高専5年間で培った社会人基礎力とも言える能力は、きっと皆さんの多分野での活躍の糧になります。また、高専も歴史を積み重ねてきました。きっと身近に先輩や同級生がいますので、困った際にはお互いに助け合いつつ、日々精進し、一步一步堅実に成長して行って下さい。

最後になりますが、健康には十分に留意し、皆さんの今後の人生が充実したものであることを祈っています。また、皆さんの今後の活躍を期待しています。

卒業記念 ～建築学科～

建築学科の卒業生へ

5年担任 山本 剛

4月から皆さんの立場は大きく変わります。「建築のプロフェッショナルである」ということです。この間まで「建築を学んでいる学生」でしたが、入社と同時に建築の専門家として造ったものに対して責任を負う立場になります。身近にある建築物ですが、建物を建てている人が全てを知っているわけではないけれども、一般の人はそうは見えてくれない。建物を建てた後に「ここを、こういう風にして欲しかったのに」と言われたらどうしますか。

建築の勉強をしたことのない人達にとって建築の世界はよく分からないものです。RC造とS造、建具と壁、土台と基礎等、これらの違いが分からない人は多数います。壁の内側や天井の裏側の構造のことが分かる人は少ないでしょうし、住宅の断熱性能や耐震性能のことが分かる人はさらに少数でしょう。建築のプロフェッショナルとしてどのような人生を送りたいですか。都城高専で建築を学んだ皆さんだからこそ出来ることは何でしょうか。

建築物は用途や立地に合わせてつくられるので多種多様ですが、人々が安全で快適に利用できる点は共通しており、荷重に対して安全であること、燃えにくく避難しやすいこと、耐久性・耐候性があることが求められます。しかし、現状はどうでしょうか。1995年兵庫県南部地震では多くの建築物が倒壊し、死者数が6400人を超えました。2011年東北地方太平洋沖地震では大津波が発生し、2万人近くもの死者・行方不明者が出ました。アポロ11号が月面着陸してから50年以上経ち、AIとITも日常になった我々ですが、いまだ自然災害を克服できないでいます。この2年間も世界中で多くの自然災害がありました。2023年2月6日にはトルコとシリア国境付近でM7.8とM7.7の地震が発生し、両国では死者60000人以上、2000万人を超える被災者が出ました。2023年の9月には地中海で発生したサイクロン「ダニエル」が地中海沿岸諸国を来襲し、リビアのデルナ市街では大洪水が発生してダムが決壊し、死者は5000人を超、行方不明者は1万人以上だと言われています。2024年1月1日には能登半島でM7.6、最大震度7の大地震が発生し全壊6461棟、半壊2336棟の住家被害が発生し、人的被害は1911人に及んでいま

す（消防庁、2025年1月28日現在）。2024年8月8日には日向灘を震源とするM7.1の地震が発生して、日南市では最大震度6弱が観測され、宮崎県内では半壊2棟、一部破損73棟、人的被害10人が発生しています（消防庁、8月15日現在）。また南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）も発表され、日本中に緊張が走りしました。



日本には111の活火山があり、美しい自然に囲まれ、多くの自然の恵みを受けている我々ですが、建設技術者である皆さんは日本が「災害大国」であることを忘れてはいけません。南海トラフ巨大地震の発生確率は今後40年間で90%程度とされ、富士山や桜島の大噴火の可能性を指摘する研究者もいます。地球温暖化により台風は大型化し、大型の台風が勢力を維持したまま都市部を直撃するようになりました。高度化した都市がこれらの自然災害に対して脆弱であることは昨今の自然災害を見れば明らかです。周りをよく見てみると、地震が来ればすぐに倒れてしまうような建物があります。津波がくればすぐに流されてしまうような海岸沿いの集落があります。土石流や地滑り、がけ崩れの恐れがある渓流や場所があります。一般の人には見えなくても、建築の専門家である皆さんにはこれらがよく見えるはずです。これらの建物や危険な箇所に住んでいる人達の中には、このような建物や場所で生活せざるを得ない人達がいるのです。皆さんは建築のプロフェッショナルとしてこれらの人達の力になってあげてください。

1月24日に5年間の集大成である卒業研究の発表会がありましたが、教員からの厳しい質問にも怯むことなく自分の考えを述べている様子を見て、建築のプロフェッショナルとして活躍している皆さんの未来の姿をイメージできました。自分を高め、家族を大切にし、会社と社会へ貢献し、世界をより良いものへしてください。皆さんの活躍を期待しています。

修了記念 ～機械電気工学専攻～

更なる飛躍を！

専攻主任 瀬川 裕二

機械電気工学専攻（機械系）2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

専攻科2年生の学生とは本科3年生のとき以来の担任となりました。本科3年生のときはコロナ禍が始まって今までと環境が大きく変わってしまい、最初の半年は遠隔授業でした。後期になって対面授業は再開したものの、3ヶ月で遠隔授業へ移行し、そのまま1年が終わってしまいました。担任らしいことはほとんどできずに終わった1年でした。高学年の授業がほとんどない私にとって4年生以降の君たちと接する機会はあまりなく、今年、久しぶりに多く接するようになりましたが、接し方や話し方が3年生の頃と大きく異なっていて（当たり前のことではありますが）、成長した君たちを頼もしく感じました。

君たちが本科3年生のときにこんなことがありました。当時、遠隔授業をこなす中で課題の解答を明らかに間違っているのにそのまま写している人がクラス内で散見され、私から「人の解答を見たときになぜこうなるのか考えなかったか？写すだけで何も考えないのであれば課題をやる意味は全くない」と言われたことは覚えているでしょうか。遠隔授業で多くの課題が与えられ、とりあえずこなせばいいと機械的に取り組んでいたのかもしれませんが、もし間違いに気づいても修正が面倒でそのままにしたなど、学生なりの苦労はあったと思います。周りの協力を得ながら物事を進めていくことは当然必要なのでそれ自体は否定しませんが、これからの時代は変動が激しく、求められるものも目まぐるしく変わっていくので、先を見据えて時代の変動に対応できるように自分を高めていかなくてはなりません。しかし、人の解答をそのまま使用するような他力本願な考えでは何も残りません。自ら考え、動いていかなければ、スキルは上がりませんし、キャリアも積み上げることはできません。自分を高めるための近道はありません。目の前の問題と地道に向き合い、自ら考えて解決できる人材となれるよう精進してください。そうすれば、君たちはきっと社会で真に必要とされるはずです。

そして、君たちは本科から就職ではなく専攻科への進学を選んだわけですが、この2年間はど

うだったでしょうか。この2年間で自分が思い描いていたような成長は感じられたでしょうか。専攻科に入学して、勉学に励みながらも研究により一層励まなければならない環境には苦勞することも多々あったことと思います。自分の力で乗り越えなければならない壁がたくさんあったと思いますが、前述のようにそれらを自分の力で乗り越えていけば、成長できた日々を過ごせたものと思います。



先を見据えて考える力だけでなく、時代が変わっても変わらず大切なこともあります。大学院へ進学する人もいずれは就職するので、そのときの話をします。仕事はものづくりであっても多くの人が関わって作り上げるものなので、人と人の繋がりで進めなければなりません。世代や出身地が異なる人と仕事をすることになるので、同世代、同郷同士で過ごしてきた学生時代のようにはいきません。そして、どんな環境下においても大事なものは、礼儀、他人を思いやる心です。優しく接したり、良くしたりしてくれる人に嫌な気はしません。人間関係はそこからではないでしょうか。もちろん、仕事そのものができる前提になります。「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」という言葉は聞いたことがありますか。自分がされて嫌なことは他人にやってはいけないという論語の一節です。逆に言えば、自分がされて嬉しいことを他人にしなさいということになります。このような言葉が現代でも言い伝えられるのは、時代が変わっても変わらず大事な振る舞いだということです。AIや新しい技術が広まっていっても、それを操るのは人間です。人が関わる以上は、人との付き合い方は避けては通れませんから、人としてどうあるべきか常に考えてほしいです。そこを外さなければ、きつとうまくやっていけるはずです。

君たちの力量が試されるのはこれからです。ここで携わった人は皆、君たちに期待しています！君たちが都城高専を出てから更に飛躍され、幸せな人生を送ることを願っています。

修了記念 ～機械電気工学専攻～

専攻科修了生へ

専攻主任 永野 孝

専攻科2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。ご家族の皆様にも心からお慶びとお祝いを申し上げます。専攻科2年生の皆さんにとって、本科の5年間と専攻科の2年間は充実した期間だったでしょうか。専攻主任は今年度の4月からで、1年間しか専攻主任としては皆さんに接していませんが、十分な指導も出来ないうちに1年が過ぎてしまったような気がします。専攻主任として、皆さんと接することが出来た事は、自分にとってはやりがいを感じる事が出来た1年でもあったと思います。

新型コロナが、最近は5類に移行し生活も落ち着いて来ていますが、本科生の時は新型コロナ禍に振り回され、新型コロナ禍なしには語れない学生生活であったと思います。一種の困難を乗り越えてきた学生生活であったと言えると思います。その中でも、修了する事が出来たのは、やはり周り人の協力や支えがあったことが一番だと思います。周りの人への感謝を忘れずに、今後の生活を送って下さい。自分も、コロナ禍での授業は今まで経験したことのない遠隔授業をすることとなり、さらに学生実験や卒業研究も遠隔授業になり、授業の準備や授業の進め方、校務など大変な思いをした時期でもありました。

高専生は、中学校3年生で自分の進路を工学の分野と決め、5年間の本科での勉学を終え、当然そこで就職という進路もあったにもかかわらず、さらに2年間の専攻科での勉学を選択し学生生活を過ごしたわけです。クラスの2名は、大学院への進学を選んで勉学に取り組むことになり、今後のさらなる専門知識の習得に期待しています。

専攻科は本科と違い、専門知識を習得することはもちろん、企業あるいは大学で10日間の仕事・研究に取り組む実務実習、他学科の学生と協力して取り組む創造デザイン、研究をさらに高いレベルに進める特別研究があり、本科とは違った刺激があったと思います。特に、学会発表は、「井の中の蛙、大海を知らず」ではありませんが、多くのことを学び、刺激を受け、成長できた機会であったと思います。

工学分野は、日々の技術革新が激しく、生活を楽しく豊かにしより良い物が、世の中にどんどん出てきています。その反面、それらを使いこなす人の理性が問われている時代でもあります。



また、今後はさらに、国際化の時代が進みます。そのためにも、外国の企業や大学に出て行く勇気を持つことも大切なことだと思います。国内だけでなく世界に出て、外国から日本を眺め、より高度な専門性を持つ人達に接することで刺激を受け、自分の専門性を高め、視野を広げ自分を成長させてくれます。

そして、心身ともに健康であることも大切な事であると思います。「健康は最も失いやすく、最も貴重な財産である」とも言います。健康であれば、何事にも取り組む意欲が出てきます。卒業後も健康に留意し、大学院あるいは企業での日々の生活を送って下さい。

皆さんは、まだまだ若いのです。高い目標に向かって努力し研鑽をつみ成長できる年齢です。若い時の苦労は買ってでもしろと言います。その苦労が人生の肥やしとなり自分をより大きくしてくれます。若い時の失敗は、いくらでも挽回できます。時には、その失敗からの方が多くのことを学ぶ事が出来る場合もあります。今後も、失敗を恐れずいろいろな事に挑戦し、取り組んで行くことに期待しています。

修了記念 ～物質工学専攻～

未来への挑戦と旅立ちに寄せて

専攻主任 野口 太郎

専攻科物質工学専攻を修了された皆さん、この度は誠におめでとうございます。また、これまで皆さんをあらゆる面で支えてこられたご家族や関係者の皆さまにも、心よりお祝いを申し上げます。この日を迎えるまでには、多くの努力と忍耐があったことと思います。皆さんの成果は、周囲に支えられながらも、自らのたゆまぬ努力によって掴み取ったものです。

振り返れば、皆さんが本科3年生だったころ、私は皆さんの担任として共に歩むことになりました。しかし、その年度の当初から、世界はコロナ禍という未曾有の危機に見舞われ、以降、私たちの生活や学びの在り方は大きく変わりました。授業はオンライン形式に移行し、楽しみにしていた工場見学やイベントは中止されるなど、制約が多い日々でした。誰もが初めて直面する事態に、皆さんは戸惑いや不安を抱えていたことと思います。しかしそのような状況にあっても皆さんが適応しようと努力を続けた姿を今でも覚えています。高学年への進級後も、道のりは決して平坦ではなかったことと思います。特に実験や研究活動の制限は、多くの困難を伴い、もどかしさも感じたことでしょう。しかし、皆さんはその逆境の中で柔軟に対応し、努力を続けた結果、専攻科へと進学されました。

現在、私たちはコロナ禍を乗り越えつつありますが、気候変動、生物多様性の喪失、新興感染症、エネルギー問題など、解決すべき地球規模の課題は依然として山積しています。これらの課題を克服するためには、皆さんが学んできた化学や生物の知識、さらには研究を通じて得た洞察力や分析力などが不可欠です。科学の力は、人々に便利さを提供し、社会の発展に寄与しますが、それだけではなく、未知を解明しようとする皆さんの飽くなき好奇心を満たし、新たな知識を得る歓びをもたらします。そのような知識への食欲さや探究心が、これからの皆さんの活動の基盤となることと思います。

専攻科生として過ごしたこの2年間、皆さんは多くの課題に直面し、挑戦を続けてきたと思います。実験の失敗や研究成果の行き詰まり、学会での発表準備など、数多くの苦労を経験されたことと思います。それでも、それらを一つひとつ乗り越えていく中で、皆さんは確かな力を身につけています。そのような努力の積み重ねの結果として、見事8名全員が大学院への進学を果たされま

した（東北大学大学院1名、筑波大学大学院1名、奈良先端科学技術大学院1名、九州大学大学院5名）。この成果は、皆さん自身のたゆまぬ努力の結果であると同時に、指導教員や家族、仲間たちの支えがあつてのことでもあります。



大学院進学後は、これまで以上に専門的な知識や研究能力が求められ、社会や世界に貢献する視野や洞察力、分析力、コミュニケーション力を持つことが重要になります。新しい環境では、さらに自らを成長させる多くの機会に恵まれる一方で、困難やプレッシャー、不安に直面することも少なくないでしょう。しかし、これまでの経験で培った力を信じ、未知の課題に果敢に挑み続けてください。また、苦しいときこそ、高専時代の友人たちにもぜひ頼ってください。7年間、同じ境遇で共に学び、成長してきた仲間だからこそ、互いに理解し、支え合えることも多いはずです。進学後、皆さんは高専生活の中で身につけてきた力を実感する機会が必ずあると思います。専攻科生として過ごした時間や、努力は無駄ではなかったと大いに気づくはずですよ。新しい環境や出会いの中で、自身の成長を再認識し、さらなる挑戦へとつなげていくことを期待しています。

専攻科修了というこの節目は、皆さんのこれまでの努力を称えるゴールであると同時に、新たなステージへの出発点でもあります。皆さんのこれからの人生が希望と挑戦に満ちたものであることを心より願っています。



輝かしい未来に向かって

専攻主任 大岡 優

建築学専攻の皆さん、修了誠におめでとうございます。また、保護者の方には心よりお祝い申し上げます。本科生の頃も含め、授業や研究、課外活動など色々な物事に真摯に取り組む皆さんを見てきて、修了後の皆さんには大変輝かしい未来が待っているものと確信しています。

皆さんは、都城高専の本科1年生に入学してから専攻科を卒業するまでの間、都城高専という同じ学校で過ごしてきました。本科入学から今日まで長かったでしょうか、短かったでしょうか。私にとっては皆さんと1年生の教室で初めて会った時を思い出すとあつという間だったなと感じています。体感する時間の長さは年齢に反比例するという、ポール・ジャネの法則をご存じでしょうか。1年の長さは、50歳の人には人生の50分の1ですが、10歳の人には10分の1であり、50歳と10歳では感じる時間の長さが5倍程度異なるという法則です（小学生の頃など、学校行って、帰ってきてから友達と遊んで、1日がすごく長かったように思います）。皆さんは、この体感する時間が長い青春真っ盛りの15歳から20歳過ぎまでの時期をこの都城高専で過ごしたことになります。このような経験が出来るのは、まさに高専ならではの経験でしょうか。この時期の思い出というのは、人はいつまでも鮮明に覚えているもので、私もたまにこの頃を懐かしく思い出すこともあり、場合によっては夢をみることもあります。そういう意味で、高専生活は皆さんの人生の本当に大きな一部になったことと思います。

私が皆さんの授業を受け持ったのは本科3年生からでした。この頃はコロナウィルス感染拡大の影響で皆さんと対面で接する機会が少なかったですが、5年生では授業を4科目担当し、専攻科生になってからも実験や専攻主任として皆さんと大いに接することができ、私自身、楽しく大変貴重な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

さて、皆さんはこれから本校専攻科を修了し、社会に出ることになります。専攻科を修了した場合、年齢的には四年制大学を卒業した人と同じです。ただ、皆さんには、この年齢以上に、新しい環境で大きな力を発揮する素養が備わっているという認識を持って欲しいと思います。本校の専攻科では、修了するにあたって実践的な授業や課題が多く課せられています。他学科の専攻科生と

チームを組んで行う創造デザイン演習では、その本格的なテーマ設定と取り組み方に毎年驚かされます。また、皆さんは、それぞれの研究を学会等の学外で発表してきました。一般的には、学外発表は早くて大学院の修士課程で行うことが多いかと思います。2年以上も早く学外発表を行った皆さんは、それだけで貴重な経験をし、また優れた研究を行ってきたことになります。学内での発表も聞いていると、発表資料の作り方やプレゼンテーション能力についても大変高い技術が身についていると感じました。

社会に出てからは、「その時と場所と場合を考えた行動をする」「大事な仕事は人に任せず必ず自分で行う」「行動する前に先のことを考える」ということが大事になってきますが、日々の様子から、皆さんには既にこれらを実行できる能力が十分に備わっていると感じていますので、自信を持って社会に飛び立ってもらえればと思います。

最後になりますが、私が人生で最も大切だと思うことについて書きたいと思います（卒業生・修了生向けに毎回書いていることです）。それは、人と人との「縁」です。この都城高専で皆さんと出会うことができたのも、大事な人の「縁」だと思います。これはもちろん、クラスメートについても同じです。人生とは、人と人の「縁」を通して誰と出会うかで大きく変わってきます。私は、この「縁」を非常に大切なものと考え、これまで関わってきた人・今関わっている人に出会えたことに感謝しながら生きることこそ、より良い人生を送るために必要なことだと考えています。皆さんもこの人との「縁」を大事にし、これから長く幸せな人生を送ってくれるものと信じています。

数年後、精神的・社会的にさらに逞しく成長している皆さん会えるのを楽しみにしています。



卒業記念

出会いに感謝

機械工学科 5年 川添 太志



5年前の4月に入学し、コロナで色んな行事が制限されることから始まった高専生活1年目では、遠隔授業ばかりでクラスの人々との思い出もほとんど無く、窮屈な日々を過ごしていた記憶しかありません。そこから、コロナの制限も緩和していき行事も少しずつ行われるようになり、体育祭での応援演舞があるというのを知ったのも2年生の時でした。自分は、先輩方の演舞を見て、先頭に立つ団長の姿を見て、5年生になったら必ず団長に立候補しようと決めました。

そして、5年生になり、自分は夢だった団長になることができました。正直、あの頃見ていた歴代の団長のようになれるのか、たくさんのお客さんの前で堂々と踊れるのか不安な気持ちでいっぱいでした。何より自分が、この74人の応援団を最前線で引っ張れるのかというプレッシャーからなかなか眠れない夜もありました。それでも、副団長含めクラスの人々の支えや一生懸命踊りを覚えようとしてくれる後輩たちを見ると、自分が下を向いてる暇はないと感じました。俺が優勝させるという強い気持ちをもって迎えた当日でしたが、応援演舞の結果は惜しくも2位でした。最後は自分の力不足だったと感じています。しかし、最高の仲間たちのおかげで団看板と競技優勝の2冠を取ることができました。自分に優勝旗を取らせてくれた仲間た

ちには本当に感謝しています。僕はこの機械工学科応援団が本当に大好きです。

これから、進学や就職でみんな別々になり、別れは寂しいですが自分はこのクラスで5年間過ごせて本当に幸せでした。途中で留年して消えていった友達含め、色んな出会いがあり、色んな経験をさせてもらい、最高の高専生活を送ることができました。

最後に、自分を団長にさせてくれたクラスの人々、最後までついてきてくれた後輩たち、背中を押してくれた家族、アドバイスをくれた先生方など、たくさんの人への感謝の気持ちを忘れずにこれからの人生を歩もうと思います。



A glorious future, dear friend!

電気情報工学科 5年 水元 栄一



都城高専に入学してから5年の月日が経とうとしています。数か月後には卒業です。本当にあっという間だったと感じています。

2020年に入学した私たちは、今までに類を見ないほど特殊だったと思います。入学式の翌日にはコロナ感染拡大防止のため自宅待機でした。入学早々、友達を作るのが非常に困難な状況からのスタートだったのを印象深く覚えています。二年生は、私が初めて学級委員長という大事な役職に就いた年です。それ以来、ずっと学級委員長を務めています。学級委員長としてクラスを見てきて、今までとは違う学校生活の中でも、楽しい出来事もたくさんありました。高専祭や文化祭、学校全体が一丸となる体育祭やインターシップなど、さまざまな行事がありました。応援団での演舞で優勝を経験することもできました。しかし、それ以上に日々の何気ない会話の方が楽しかったかもしれません。一方で、いろいろと苦しいときもありました。レポートが終わらずに徹夜したり、完成してもやり直しを求められたり、実験の結果が合わずにやり直しを行ったり。クラスマッチでは、運動部に所属する人が少ない中で挑み、全試合で惨敗して気持ちが落ち

込んだり、学年が上がるごとに増えていった専門科目に大変苦労したりしました。三年生の文化祭ではクラスに一体感がなく、準備が進まず不満が積もったこともありました。四年生の研究発表では、体育祭の応援団に参加する人が多く、研究を手伝える人がほとんどいなかったりしました。挫折しそうな出来事も多々ありましたが、それでも楽しかったと言える学校生活でした。そんな思い出を高専で過ごせて良かったです。

2025年3月には思い出の詰まった高専を卒業し、4月からはそれぞれが選んだ進路を歩むこととなります。大学に編入する人もいれば、就職して社会人として生活する人もいます。私も4月から社会人になります。私は都城に残りますが、多くは県外に出て、会える機会が大幅に減るでしょう。しかし、私が招集をかけた際に元気で再会できることを願っています。

卒業記念

5Cありがとう

物質工学科 5年 森山 隼太



高専に入学して5年の月日が経ちました。長かったようで短かったこの5年間、思い返すとたくさんの思い出で溢れかえっています。

中学時代、同学年の中で一番に進路が決まった私は、入学式や新しい仲間との出会い、それに夢にまでみた高専生活に胸を踊らせ、ワクワクした日々を過ごしていました。しかし、現実はとても悲しいもので楽しい学校生活を送れたのは入学して多くの月日が流れた後でした。

そう、私たち2020年度入学の学生は第一学年の年がコロナ禍真っ只中だったのです。

まず、入学して私たちに訪れたのは絶望です。私たちは入学式を含め3日間だけ学校に通い、半年間の神休みに入りました。入学式をし、テストを受け、休みの説明を受け。

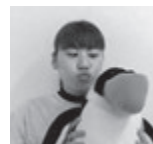
そんなこんなでコロナ禍があげ、学校で楽しい思い出が増えていきました。クラスマッチに体育祭、高専祭など、数え切れないほどの思い出を5年間を通して作ることが出来ました。でも、そんなイベントよりも私は友人とくだらない話を話して笑えたくらいの日常が好きでした。当たり前のこの日常がなくなってし

まう悲しさ。これは計り知れないです。

そんなかけがえのない友人から学んだ事があります。それは、大抵の事は笑えば何とかできるということです。私の周りには様々な人がいますが、みんないつも笑顔で困難を乗り越えていました。レポートの提出が半年遅れた時も、実験の出席日数が足りなさそうな時も、初対面の人にいきなり告白してバカみたいにならされた時も、いつも笑顔で乗り越えていました。そんなこんなで乗り越えてきた5年間で終わろうとしています。今、とても悲しく残念なお別れにみんな辛い思いをしていることでしょう。しかし、今こそ笑っていつかまた再会できる友人に胸を張れるよう、卒業後の進路を頑張りたいと思います！！このクラスでほんとに良かったと思っています！絶対また会いましょう！

仲ええ5A BIGLOVE

建築学科 5年 下村 紅羽



担任の先生から今回の学園だよりのお話をいただき、卒業記念文を書くことになりました。剛ちゃん、ありがとう。思い出としてクラスへの愛でも綴らせてもらいます。5Aってどんなクラス？？せーの、「なかよし♡」の一択しかないでしょって言うぐらいほんとに仲がよすぎるクラス。入学式の日ストーリーで高専生活スタートって出した2日後にはお家でぼっち学習、可哀想すぎる私たち。新型コロナウイルスで1年生の頃は3ヶ月程しか学校に行けなくて、思い描いた憧れの青春ラブストーリーどこいった？って感じ。分散登校では教室が静かすぎて、逃げ場となっていたトイレには人が集まり、観光地並みに賑わっていたのを覚えています。製図の提出期限に追われて廊下を駆け抜けたこと、教室では大騒ぎして怒られたことなど、5年間を通してのちょっとした悪事も今となっては笑い話ばかり。保育園の頃から一緒にいるような感覚で友達の幼馴染も親友も友達みたいな気分です。ほんとに仲良しなんですかー？って思ってる方に物申します。クラスマッチの賞状の数えぐいぞ！！それってただ運動できるだけじゃん。違うんです、我らの委員長、花牟礼桜香が言っていました。スポーツは絆が1番大事って。勉強はまあまあって感じだけど留年しそうな奴がいても見捨てないのが5Aのいいところ。ほんとに学校一、なかよしで個性強くて元気ありすぎてうるさい。

たぶん、教室も1番汚い。びっくりするほど片付けできないの。定期的に片付けても数日経てば散らかり放題。体育祭の黄色い集団覚えてますかー？次の日なんて黄色の抜け殻が教室のそこら中に散らばってました。そんな愛の溢れたクラスでの生活も3月で終わりと考えるだけで泣けてきそう。私を大きく成長させてくれた愛溢れる友達、頼れる先輩、可愛い後輩、実は優しい浅野先生、クラス愛強めの山本先生、教職員の方々、本当にお世話になりました。

これにて5A解散。またみんなで集まろう、楽しい5年間でありがとう！！



※こちらの写真、絶賛発売中です。

修了記念

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 高橋 柁隼



7年間にわたる高専生活もいよいよ集大成を迎えようとしています。7年間という時間が短く感じたのは、都城高専での学校生活が本当に充実したものであったからだと思います。

専攻科では、人生で最も充実した学校生活を送っていたと思います。学会発表や就職活動など、様々なことに全力で取り組みました。特に学会発表で過ごした時間は自分を成長させてくれたと思います。学会発表では、タイへ行って英語で発表を行い、現地の学生と交流しました。初めての海外生活や英語の発表に最初は苦勞しましたが、友人や先生方に支えられながら乗り越えたことは非常に貴重な財産となりました。就職活動では、自分自身の興味がある分野を探すことに苦勞しました。就職することが目的にならないように、将来の自分がどのような業務に携わっていたのか、インターンシップを通して自分自身を見つめなおすことの繰り返しで、常に将来に対して漠然とした不安を抱えていたことを覚えております。一方で、インターンシップを通して出会った他校の学生と将来について話し合ったことや、協力して業務を行った経験はかけがえのないものとなりました。

私は専攻科修了後の進路について、通信系の企業への就職を選択しました。通信会社に就職を決めた理由は、コロナ渦で受けた苦い経験を活かし、社会人として世に貢献できると判断したからです。学生とは異なり、社会では責任の重さが問われますが、その重圧に負けず都城高専で学んだことを精一杯発揮したいと考えています。就職後は今よりも大きく環境が変わるため不安ではありますが、自分ができる範囲で焦らず行動していきたいと思います。

最後になりますが、7年間丁寧なご指導を賜りました先生方、切磋琢磨しながら学校生活を共にした友人、常に支えになってくれた家族に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 村崎 宮忠



入学から7年が経過し、都城高専での生活が終わろうとしています。人生の3分の1ほどを高専で過ごしましたが、社会情勢の様々な変化や自身の成長を感じた高専生活となりました。

専攻科ではインターンやアメリカでの研修、また研究発表、学会誌への論文寄稿などの研究活動を通じて非常に多くのことを学びました。自分の世界が広がった2年間だと思います。特にアメリカでの研修は初めての外国への訪問ということもあり、文化のギャップに驚きを感じました。また、シリコンバレーではIT・半導体関連産業が広く根付いており、IT大国の姿を見せつけられました。このような機会を提供していただいたことに非常に感謝しております。研究活動では、野地先生の下で超電導ケーブルに関する研究を行いました。研究発表、論文寄稿を通じて、プレゼンテーションや資料作成、英語の能力が身に付き、これからの人生に必要なスキルを得られました。また、様々な学問に興味を持つきっかけにもなり、電気工学分野に限らず物理学や化学、数学などの

学問分野にも視野が広がりました。自身の好奇心を大事にしながら専門分野に縛られることなく、生涯学んでいきたいと思っています。

さて、私は専攻科修了後、大学院に進学します。大学院では超電導モータについての研究に取り組む予定です。大学院へ進学するか就職をするか、私の中で非常に葛藤しましたが、今しかできないことに挑戦しようと決心して大学院への進学を決めました。新天地での生活や研究にはワクワクと不安が織り交じっていますが、全力で取り組み、自身の成長につながる日々になりたいと考えています。

最後に、7年間の高専生活でお世話になった先生方、3年間研究を支えていただいた野地先生、私を支えてくれた家族に心からの感謝を述べさせていただきます。ありがとうございました。

修了記念

高専での7年間を振り返って

物質工学専攻 2年 宇都 大和



入学から7年が経ち、都城高専での学生生活が終わりを迎えようとしています。入学当初の私は、専攻科に進学し、本学で7年間も学ぶことになるとは思っていませんでした。振り返ると、変化と挑戦に満ちた7年間だったと感じています。

特に、本科3、4年生の時、新型コロナウイルス蔓延によりオンライン授業に移行した際は、システムに不慣れで、友人と会えない日々が続き、悶々とした日々を過ごしました。しかし、そのような制限も次第に緩和され、学年を超えて学科として一致団結し行った体育祭での応援演舞は、生涯忘れられない思い出となりました。

専攻科での2年間は、専門性を深め、自分の可能性を広げる貴重な時間でした。最初はレポートや研究に追われ、苦しい時期もありましたが、先生方や周囲の友人に支えられ、この2年間に乗り越えることができました。本科で学んだ基礎知識を発展させ、より高度な課題や研究に取り組む中で、専門分野への理解を深め、課題解決能力や自律的な学びの姿勢を身に付けることができました。また、研究室でのゼミや学会での研究発表を通じて、資料作成や

プレゼンテーション能力が向上したと感じています。

私は専攻科修了後の進路として、大学院進学を選択しました。遠方への進学にも関わらず快諾してくれた両親や、多大な支援をいただいた指導教員の先生方に感謝し、これからの勉学に励んでいきます。大学院では、さらに高度な研究を行い、数多くの失敗と経験を通して成長に繋げていきたいと考えています。環境が大きく変わることには不安もありますが、新たな出会いや機会を逃さず、この7年間で培った能力を存分に発揮したいと思っています。

最後に、7年間という長い時間があっという間に感じたのは、都城高専での学生生活が非常に充実していたからだと思います。この場を借りて、7年間丁寧にご指導いただいた先生方、共に過ごした友人、そして温かい支援をしてくれた家族、私を支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ありがとうの軌跡

建築学専攻 2年 吉留 夢々



ついに、長いようで短かった7年間の高専生活に終止符を打とうとしています。

高専生活を振り返り、これまでの日々の思い出やさまざまな思いが胸にこみ上げてきます。

初めての高専生活に足を踏み入れた16歳。不安でいっぱいだったあの日のことを今でも鮮明に覚えています。17歳、毎日が楽しくて自分の中で大切だと思える友人が沢山できました。将来への不安と周りとの熱量差に違和感を覚えた18歳、建築とは全く別の道に進もうとしていた私を家族・友人が引き留めてくれました。自分の決めた道は最後まで突き進もうと心に決めた出来事でした。19歳、大切な人との別れをきっかけに、自分の中で大きな変化がありました。つらく悲しい出来事でしたが自分を見つめ直すきっかけになりました。選択を迫られた20歳、就職をすることしか頭になかった私に友人が進学の道を勧めてくれました。専攻科への進学が決定し、期待に胸が膨らむのと同時に友人との別れに沢山涙しました。21歳、不思議な気持ちとワクワクを抱えた

入学式。学校では仲間たちと協力して沢山の課題をこなし、多くの経験を積めた年でした。22歳、研究や就職活動を本格的に開始し、国家試験にも挑戦しました。さまざまなことが同時進行で苦しい時期ではありましたが、自分の目標に向けて努力できた1年でした。また、行きたかった会社への内定も決まり、いよいよ4月からは社会人になります。

卒業は終わりではなく新たなスタートだと思っています。この出発地点からそれぞれが描く未来に向けてさらに成長し、いつかまた、ここで出会った仲間と笑顔で再会できる日を楽しみにしています！

最後になりますが、私たちを温かく見守り、指導して下さった先生方、そしていつも支えてくれた家族や仲間へ心から感謝申し上げます。高専に来てよかった、今の私は心の底からそう思います。高専ありがとう！！

「勇住邁進」

高専祭実行委員長挨拶 種子田 峻聖

今年度、私は都城高専60周年という節目の年に、高専祭実行委員長という大役を担いました。この1年間は、これまでの人生で最も充実した時間であり、多くの学びと感動に満ちたものとなりました。高専祭の成功に向けて抱いていた責任感と期待、そしてその達成感は計り知れないものでしたが、同時にその終わりには一抹の寂しさを感じました。

文化祭の運営を通じて、私は多くの経験を得ました。その中で特に深く学んだのは、「仲間の大切さ」です。頭では仲間の重要性を理解しているつもりでしたが、それは表面的な理解に過ぎませんでした。

4月ごろ、文化祭の準備が本格化する中で、私は引き継ぎや資料作成などの業務に追われ、すべてを1人で抱え込んでいました。これは、私が仲間を頼ること、つまり信頼することができていなかったためだと思います。その一方で、私はリーダーとして「上から全体の動きを把握し、指示を出して頼られるような存在」が理想的だと考えていました。しかし、一人で全てを抱え込み続ける中で、次第に限界を感じるようになり、自分だけでは乗り越えられない壁があることに気づきました。そんなとき、仲間たちが手を差し伸べてくれたことで、『仲間を頼ること』の大切さを知りました。

この経験を通じて、リーダーとして最も重要なのは、個々の力を最大限に引き出すことだと実感しました。そして、リーダーとは「皆の上に立つ存在」ではなく、「皆の前に立ち、共に進む存在」であるべきだと考え方が大きく変わりました。

この大切な気づきを得られたのは、総務をはじめとする実行委員の仲間たちのおかげです。彼らの支えがあったからこそ、私はリーダーとしての役割を果たすことができました。仲間と共に悩み、努力し、困難を乗り越えた日々は、私の人生における『宝物』です。高専祭の終了後、実行委員全員で撮影した集合写真や、花束をもらった瞬間は、特に忘れられない思い出です。その時、胸に込み上げてきたのは「この仲間と頑張った本当に良かった」という感謝と喜びでした。その花束は現在ドライフラワーとして私の手元にあり、見るたびに高専祭での最高の時間を思い出させてくれます。

最後に、この高専祭を支えてくださった実行委員の仲間たち、先生方、そしてご来場いただいた皆様に心から感謝申し上げます。この経験は、私のこれからの人生においても大きな力となると確信しています。本当にありがとうございました。



機械工学科 『電動アシストシルバーカー』

釘崎 孝祐

私たち4年機械工学科の研究テーマは、高齢者が移動や買い物に使用する手押し車「シルバーカー」に電動アシスト機能を搭載することで、歩行が困難な高齢者の移動や買い物をより楽にし、高齢者の生活の質を向上させるとともに、歩行の持つ筋力や体力の維持、心肺機能の向上、生活習慣病の予防・改善、認知症の予防といった多くの健康効果を活かしながら、介護士不足や老老介護、在宅介護を行う家庭の負担を軽減することを目指しており、この研究においては、3D CADソフト「Fusion」を用いてシルバーカーの設計を行い、工作機械や3Dプリンターを活用して部品を製作し、さらにマイクロコンピュータ「Arduino」とC言語を使用して電動アシスト機能の制御をプログラミングするという三段階のプロセスを経ており、軽量かつ剛性が求められることからアルミニウムを多用し、デザイン面でも3Dプリンターでは黒色の素材を使用してアルミニウムとの色のコントラスト

を強調し、スイッチボックスには白色を採用することでモダンなデザインに仕上げましたが、その結果として、ハンドル部分には若干のぐらつきが見られるものの、タイヤ周りの剛性は非常に優れており、小回りの効きにくさが課題として残る一方、電動アシストの制御については誰でも簡単に操作できるレベルのものとなっており、特にハンドル部分のタッチセンサーに人体の一部を回路として利用するという大胆な方法を採用したことで、開発期間の短縮とコスト削減を実現できたことは大きな成果であり、これらの成果を基に、今後は日本における少子化や運送業界の人手不足といった社会的課題を背景に、シルバーカーのみならず、台車やベビーカーなどさまざまな製品への電動アシスト技術の応用が期待されており、この技術が人々の生活をさらに便利で快適なものに変える可能性を見出しています。

電気情報工学科 『顔認証を用いた出席管理ソフトの作成』

安部 竜之介 森 健太

私たち4年電気情報工学科は、皆さんが授業前に行う出席確認の不確実性に着目し、出席管理をより正確に行うことができないか考えました。普段の手動での出席確認は時間がかかり、学生の出席状況の正確性に課題が残っていました。また、教員によって遅刻者の出席の扱いが違うことがあり、公平な評価にも問題点がありました。

こうした問題を解決するために、私たちは顔認証技術を使えないかと考えました。顔認証技術は、スマホのロック解除などに用いられている技術で、少し前から製品に使われるようになりました。特徴として、レスポンスの速さや、非接触での認証が可能といったものがあります。精度がそこまで高くないといった欠点はあるものの、全学生が1000人以下ということを考えると誤認識の頻度は低くなるだろうと考え、出席管理の認証方法としては最適だろうと考えました。

作成したソフトウェアでは、画像処理に「OpenCV」を、顔認証の処理に「Face Recognition」を、Excelの管理に「openpyxl」というオー

ブンソースライブラリを用いました。動作の流れとしては、まずUSBカメラで取得した画像をOpenCVで顔認証の処理がやりやすいように加工し、次にFace Recognitionで顔認証を行います。そこで得たデータをopenpyxlでExcelシートに記録するというフローで動作します。実際の動作では、問題なく顔認証を行うことができましたが、動作が低速であったり、誤認識が起きるなどの欠点も見つかったため、さらなる改良を目指したいです。

今回、研究を進める中でうまくいかないことも多々ありましたが、改善案を出し合ってよりよい成果へと協力して近づけることが出来たため、良い経験となりました。この場を借りて協力してくださった白濱先生、クラスメイトの皆へ感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

物質工学科 『殺虫剤の形態変化井による利便性の向上～環境にやさしく『蚊から身を守る』殺虫剤の開発

小村 当矢 佐々木 晟真

私たち4年物質工学科は皆さんも親しみのある蚊取り線香をテーマに研究を行いました。

近年、用いられている殺虫剤は化学合成されたものがほとんどでその多くは環境へ悪影響を与えるものとなっています。しかし、蚊取り線香は天然由来の防虫菊からできています。既存の殺虫剤より環境への悪影響が小さくなっているのです。また、蚊という生物は病原菌を運ぶ代表的な生物であり、デング熱やマラリアなど皆さんもご存じの感染症を引き起こします。日本ではあまり確認されていない病気ではありますが、地球温暖化の影響によって私たちの身近にも迫ってきています。

私たちは蚊取り線香のデメリットである、灰が出ること、室内で使用できないことを解決するために殺虫剤のみを蚊取り線香より抽出し、キャンドルとディフューザーに加工しました。

今回の実験では比較のため蚊取り線香のほか、嫌な虫がいなくなるパウダー、天然除虫菊パウダーを用いました。それぞれの殺虫剤には有効成

分であるアレスリン、シフルトリン、ピレトリンが含まれており、これをソックスレー抽出器を用いて5時間かけて抽出することに成功しました。

これらの有効成分を溶かしたロウと混合させ冷やし固めることによってキャンドルを作り、希釈した液をディフューザーに入れることで有効成分が空气中に放出されるかを実験しました。

結果としてはキャンドルは思うような結果を得ることはできませんでしたが、ディフューザーに関しては有効成分がしっかりと確認され、殺虫剤としての機能が期待できる結果となりました。

私たち4年生は研究を行うのははじめてではありましたが、研究を進めるにあたり多くの先生やクラスメイト、文化祭実行委員会の皆様にご指導ご鞭撻を賜り、最後までやり遂げることができました。特に担任である岡部先生、物質工学科の山下先生には終始熱心にご指導いただきました。心から感謝いたします。

建築学科 『不満をカタチに～みんなの意見を反映した学校建築のアイデア』

酒井 瑞月 前田 煌生

近年、日本の学校建築において問題となっている建物の老朽化。本校も創立から60周年を迎え、改修工事を重ねてはいますが、過ぎていて不便に感じる場所がいくつかあります。そこで私たちは、本校の全学生、教職員を対象に学校建築に関するアンケート調査を実施し、得られた不満について原因を追究し、安全性や快適性を向上させるための解決策を考案しました。本研究では特に意見の多かった「トイレ」「各学科棟の庇」「建築学科棟の床」の3つの問題について主に研究しました。

トイレに関する研究では照明に着目し、照度計を用いて本科棟のトイレ内の照度を測定した結果、場所によって明るさにばらつきがあり暗い空間が生まれてしまっていることがわかりました。そこで、トイレ内の照明を強くしてシェードやカバーをつけることで部屋全体を明るくすることができ、快適に使用できるようになると考えました。

各学科棟の庇に関する研究では、雨の日に学科棟の床が濡れるという不満について庇を

取り付けることで解決できると考えました。取り付ける角度と必要長さを雨の落下速度と都城市の平均風速から計算しました。また、1/4スケールの模型を製作して実際に計算した庇で雨が防げるか検証しました。検証の結果、必要長さの庇を取り付けることでかなり雨を防げることがわかりました。

建築学科棟の床の反り問題に関しては、改修工事当時の図面の調査や、当時の状況を知る先生へのインタビューから予算の不足により下地が他学科棟より少なくなっていたことが明らかになりました。そこで解決策として床の一部を切り取り、反りを防止する方法や、庇を設置する方法を考案しました。

我々の提案した解決策はどれも比較的少ない改修で効果が期待できる現実的なものです。我々はこれからもより良い学習環境を作るための提案を続けていきますので応援よろしくお願いいたします！また本研究にご協力いただいた先生方、4Aの皆さん本当にありがとうございました！

★機械工学科3年★ 『元気で優しくて多忙で超活動的 3年機械工学科』

津留 昇希

こんにちは。3年機械工学科の委員長です。
突然ですが、とある先生曰く、このクラスは小3みたいなクラスだそうで、肯定的にとらえると元気があるクラスだとのこと。確かに授業中は妙に静かですが、昼休みや休み時間、放課後、そして体育競技会や高専祭などのイベントでは元気でにぎやかな3M学生を観察することができます。

例えば令和6年度体育競技会のクラス対抗リレーで、3Mが優勝したことは記憶に新しいでしょう。この勝利のためにみんなで一致団結して練習をしたと言いたいところですが、実は体育の時間にバトンパス練習を1回通しただけだったりします。練習をしていないのに優勝してしまう、それが我ら3Mの元気の底力なのです。

さらに、3Mの学生は皆優しく、クリスマスなどの真面目に登校したクラスメイトを救うため、クリスマスパーティーを開催してくれる心優しいサンタとトナカイも在籍しています。困っている人がいればほっとけないというのが3M学生の気質なのです。現に、この文書の作成に当たって何人か

の3M学生にネタの提供や推敲に協力をしてもらっており、皆快く協力をしてくれました。

そんな3M学生のほとんどは、多忙な学生生活を送っています。なぜなら、皆その元気を積極性と行動力に変換し、高専祭の実行委員や局、体育競技会の運営、学生会、部活などに参加しているからです。さらには、ロボットアイデア甲子園やビジネスプランコンテストなどに参加し、優秀な成績を残していく学生もおり、3M教室では常に誰かが何かしらの期限に追われてPCにかぶりついている姿を見ることが出来ます。その多忙さからか、試験の平均点は他クラスと比べてやや劣りますが、ほとんどの人は後期中間から危機感を感じ始めると成績を大幅に向上し始め、前期の成績からは考えられない点数を取ったりします。いわゆる背水の陣というやつです。

まとめると、3M学生は元気で優しくて多忙で超活動的ということです。

そんな、常に背に水を感じている3年機械工学科を今後ともよろしくお願いします。

★電気情報工学科3年★ 『girls and boys, do not cry』

増森 涼太

我がクラスを一言で言うなら“スクラム組んで突き進むクラス”だと思っている。日常ではそんなことを感じることは少ないが、例えば高専祭などの行事でクラスがまとまらなくてはならないとき、一気に目的に向かっていくことに気付く。昨年行われた高専祭で、シューティングゲームの作製を行った。ソフトウェアやハードウェアの知識が要求されるが見事に完成させることができた。専門的な知識はまだ充分でないものの、クラブ活動で得た知識や先生方に聞いた知識を持ち寄った形で挑戦した。自宅でソフト開発を行う者、情報実験室でハード製作を行う者、他にも外装のデザインやゲームデザインといったいくつかのグループで作業を分担して、特定の日時に全体を擦り合わせることを繰り返して予定通りに完成させた。僕が言うのも何だが、出来のいいものとなった。「偉いぞ、よく頑張った3Eクラスのみんな」と褒めたい。クラスの全員の協力があってこそその成果と思われる。

その一方で、面白い話もある。体育競技会で使うクラスTシャツを頼んだ。その背中に入れた文言

がタイトルである「girls and boys, do not cry」だ。これを「フレフレ3E、頑張れ頑張れ3E」と訳した人物がいるそうで、それを聞いたある保護者との会話が一瞬で終わったという裏話がある。どういう意味でこの文言にしたのか謎は深まるばかりの面白いクラスでもある。

4月から本格的に専門科目を学ぶことを楽しみにしている。その中で個性を伸ばし、クラスのみんなとそれぞれ目的に近づけるように頑張りたい。



★物質工学科3年★ 『和気藹々！3Cの魅力』

若松 大洋

都城工業高等専門学校に入学してはや3年が経とうとしています。私たちのクラスである物質工学科では現在42名の仲間とともに日々、学生生活を謳歌しています。

私たちのクラスは、お互いを尊重しあい、相手を思いあうことができるクラスです。私たちは、自分の長所でクラスメイトを支え、クラスメイトのみんなから支えられ生活しています。クラス内は非常に風通しがよく、皆一様に仲が良く、心の障壁も少ないため居心地の良い雰囲気となっています。

学業は特に、クラスの協調性が高まる瞬間といえます。1年生のころから毎週実施される実験では、実験スキルだけでなく物質の特性、反応についての知識など、求められることはたくさんあり、個人の力でできることには限りがあります。そこで、クラスのみんなとの連携が重要となってくるのです。自分のためだけに動くのではなく、クラスみんなでお互いを助け合って実験を遂行することが求められます。そのため、必然的にクラスメイトとの友情と信頼が育まれ、クラス内の仲

が深まることに繋がっているのです。

また、クラスみんなで協力するのは学業だけではなく、年に2回ほど実施されるクラスマッチや高専祭のような学校行事でも我々のクラスの協調性の高さは大きく発揮されます。例えば高専祭では、リーダーシップを発揮する学生を先頭にクラス全体で高専祭を盛り上げようとし、各々の個性を発揮し、長所を生かして様々な場面で活躍しています。これらの行事では、普段の学業では気づけなかったクラスメイトの良さを新たに発見できる良い機会となっており、勉強が苦手な私もクラスのために貢献できるチャンスのもととなっております。

このように、私たちのクラスではみんなが協力し合いより良い高専生活を送れるように一人一人が大きく貢献しています。もちろん、クラス内で衝突を起こすことも稀にありますが、その度に私たちは話し合い、より成長してきました。残りの2年間ではこれまで以上に仲を深めて生涯忘れることのできないクラス、級友となることは間違いありません。

★建築学科3年★ 『個性大爆発』

荒場 空

私たち、3年建築学科は総勢41名の個性豊かなクラスです。

個性豊かなだけあって、クラス単位での活動はあまり結果を残していません。文化祭や体育祭では個性が爆発し、ガチ勢と非ガチ勢がぶつかって、多少のけんかをする事3年、なんとか毎回完成させています。

今年はキッチンカーで買ったものを食べられるスペースを作る予定でしたが、紆余曲折あって7つのベンチを完成させました。

わがクラスはどちらかというと個々の活動で光っている学生が多い印象です。特に学外の活動では第15回建築甲子園に3Aの学生を中心として構成された2チームが出場し、宮崎県予選で優勝と準優勝に輝きました。

そんな3Aが1番盛り上がるのはテスト翌週の特活で行う席替えです。

ビンゴマシーンで行われる完全ランダム、ドキドキわくわくなその時間が1番騒がしいと思います。授業中はほとんどなんのリアクションもないし、先生方が面白いことを言ってもなんの笑いも起きないのでこの瞬間以外に騒がしくなることはほぼありま

せん。わくわくしていると言っていますが、特に誰と隣になりたいなどはありません。しかし唯一人気がない席があります。それが1番左側の最前です。理由はスクリーンが机の真上に降りてきて、見えづらいというかほとんど見えないためです。

無事今年も数人の学生が身を挺して犠牲になってくれました。この場を借りて心から感謝申し上げます。ありがとうございます。ここはこれからの後輩たちのためにも少し改善されてほしいと願うばかりです。

「課題は期限当日になって全員で焦ること」

「男子はクラスマッチのために練習に励むこと」

「女子は各々グループごとに内容のない談義を繰り返すこと」が繰り返されるのが日常風景な3年建築学科。

ここまで3年の月日をかけて男女の壁がなくなってきたので、おそらく5年生のころには全員が仲のいいちょうどいい温度感のクラスになっていると思います。まだまだ成長途中の3Aを温かく見守っていただけると嬉しいです。

創立60周年記念式典

オープニング

記念式典に先立ち本校のこれまでの60年を振り返るスライドショーが披露され、参加者は高専の今昔を懐かしみました。

創立60周年記念式典

本校は昭和39年に開校し、令和6年に創立60周年を迎えました。それを記念し、去る11月5日（火）に、本校第一体育館で挙行し、第二体育館では1年生から3年生までが第一体育館での様子を映像で確認する形で参加となりました。



記念式典の様子（第一体育館）



記念式典の様子（第二体育館）

式典では、本校 田村 隆弘校長の式辞の後、宮崎県知事 河野俊嗣 様、都城市長 池田宜永 様、文部科学省高等教育局専門教育課課長 梅原弘史 様からの祝辞をいただき、本校学生会長 物質工学科5年 山下 源さんの挨拶の後、国立高等専門学校機構 谷口 功理事長から謝辞がのべられました。当日は来賓、卒業生、在校生、教職員など 計約1,000名が参加し、盛大な式典となりました。



田村 隆弘校長 式辞



山下 源学生会長 挨拶



国立高等専門学校機構 谷口 功
理事長 謝辞

創立60周年記念講演会



「思うは招く

夢があれば何でもできる」

式典後の記念講演では、(株)植松電機 代表取締役社長 植松 努 様をお招きし、「思うは招く 夢があれば何でもできる」と題してご講演いただきました。ご自身の経験に基づいた「夢があればなんでもできる。失敗を恐れず、自ら挑戦することの大切さ」についてのお話しは、参加者全員に響くすばらしい講演となりました。

創立60周年記念公演

午後には都城市総合文化ホールにて記念事業「DRUM TAOによる和太鼓演奏」を鑑賞しました。DRUM TAOの力強く、また、繊細な和太鼓を中心とした和楽器の演奏や演舞が披露されました。演奏後には本校学生とのコラボレーション演奏も行われ、参加者も多く元気いただきました。



本校学生とDRUM TAOとのコラボレーション演奏



山下学生会長からのお礼の挨拶

創立60周年記念事業募金

創立60周年に当たって、創立60周年記念事業募金として、校内外に広く任意の寄附の御協力をお願いいたしましたところ、卒業生や保護者の方を始めとして、多くの方々に創立60周年記念事業に御理解と御賛同をいただきました。

紙面をお借りして、ここに厚く御礼申し上げます。

子離れ親離れ

機械工学科 5年 福地 善信

つい先日、高専に入学したと思っていたらいつの間にか卒業間近となり月日の経つのは早いものだと感じます。

ちょうど高専の入試が迫ってきた頃、新型コロナが猛威を振るい始め、戦々恐々としながらの受験突入となりました。幸い、推薦入試で合格を頂いたことで周囲の子たちよりも早く進路が決まりホッとしたことが思い出されます。しかし、新型コロナの影響はその後も続き、入学式も終わり無事に学校が始まるかと思いきや、入寮翌日に寮が閉鎖になるから迎えに来てとの連絡が入りました。日常に戻った今となっては良い思い出ですが、当時の息子含め学生たちは大変に苦労したと思います。本来ならば寮生活で楽しい学生生活を送っていたところを、家にいることで姉弟たちの相手もさせられて申し訳ない思いもありました。ほぼ日中は遠隔授業でずっと部屋にこもっている生活が続き、年頃で食欲旺盛なのに運動不足な状況が続き、少～しずつ顎が二重になっていき、後ろ姿もあれ？中学生の頃こんなフォームしてたっけ？という感じになってしまいました。本人も認めていますがいづの間に小さなおじさんが誕生していました。つい先日、母親とランチをした際、お会計で「別々ですか？」と職場の同僚のように思われていたようで、かなりショックだったようです。3回生にあがるところには学校生活も通常通りに回るようになり、ようやく学業に部活動に励めるようになり、これまで充実した学生生活を送ってこられたようです。寮生活を送ることで何から何まで自分でしなくてはならない生活となったた

め、寮から帰宅するたびに少しずつ大人びていく姿を感じられました。

学校行事等について、私たち親は仕事の関係もありほぼ参加できませんでした。写真等でしかどのような様子だったのか知ることが出来ませんでしたが、青春を目一杯感じている雰囲気がひしひしと感じられました。

5年間の学科生活はもう少しで終わりを迎えます。この5年間でどこまで自分を高めることができたのかは近くにいなかったのあまりよくわかりません。親の私たちは少しでも早く自立して欲しいと願って高専に送り出しましたが、「何でそんなことする？」と指摘しまうこともよくあります。学科を卒業して就職する子も多い中、息子は専攻科にもう少しお世話になります。今のところ、将来についての話を聞いても何だかはっきり目標が定まっていない気がしないでもありません。それが親としてはとても不安です。私自身は親に迷惑を掛けながらも遠回りしつつ、小さい頃からなりたかった職業に就いています。学生生活が続けるうちは散々迷惑掛けてもらって構いません(留年は勘弁して下さいね)。学生でいられる時間もどんどん少なくなっていくので、しっかりとした将来のビジョンを描いて社会に出ていけるように精進してください。

追伸

ルックスは自然と周りが追いついて追い越していくと思います。

高専生活10年間

機械工学科 5年 赤峰 ゆかり

私もここ都城高専の出身。学生時代はと言うと、高専祭や体育祭などの楽しい思い出がたくさん。と共に、とにかく製図の課題(A科卒)が苦手で、締め切り間近なと毎晩徹夜、高学年にもなると、製図室に学友数人(いつものメンバー)とこもり、FMラジオが流れる中、日付が変わる日々を送っていました。それはそれでいい思い出。息子も中学の時、一時はA科を目指したようですが、「自分は頭の中で立体を組み立てるのが苦手だ」という事で、M科を志望、親に似たようです。M科も製図はあるでしょうに・・・

5年前、ちょうどコロナの始まり。入学式翌日から半年間の休校。「長い人生半年くらい」と私は思いましたが、思春期真っ只中の子供たちにはやはり途轍もなく長い時間。新しい友達を作って学生生活を楽しみたい時期だったはず。今、ようやくそれを満喫しているようです。

この5年間、本人はどうか、私はとても楽しく充実した高専(親)生活を送らせていただきました。部活動はサッカー部。毎週のように試合に向いては子どもたちの応援。高専がこんなに部活動に力を入れているとは思ってもよらず！お陰様で2回も全国大会に連れて行ってもらい、4年時には準優勝という素晴らしい結果を残してくれました。もう十分に親孝行な息子です。

学校後援会も代議員→副会長を仰せつかり、この2年間は様々な活動をさせていただきました。学生の為に自分でも勉強の日々。多いときには月に数回学校へ通うこともあり、学生時代に戻った気分。先生方ともお話しする機会が多々あり、学校の事、学生の事、就職の事、進学の事、もちろん我が子の事、いろいろな情報やおもしろい話を聞くことが出来ました。これ

も後援会に携わってこそその経験、本当に有難いことです。

息子の事も少しだけ。

卒業後は大学へ進学します。4年時のインターンを2か所行き、てっきり就職かと思いきや、「俺大学に行く」と。それから受験に向けて猛勉強。「高専からの就職が一番お得！」と思っている私からすると「なんて勿体ない!!!」と思う反面、本人のやりたいようにと思う親心もちらほら・・・

部活動を5年間、くじけず(時折くじけていたようだが)続けて来られたのも、素晴らしい仲間先輩後輩に恵まれたお陰です。今でも時々サッカー行ってくると出かけていきます。根っからのサッカー小僧なのかもしれません。いや、ただ単に友達と遊びたいだけかも(笑)。

この先、大学・就職と進むにつれ、今以上に大変なことにぶつかっていくでしょう。でも、この高専で過ごした5年間を思えばきつと乗り越えて行けるはず。コロナ禍で過ごした事、友達の事、勉強の事、部活の事、貴重で最高に素晴らしい経験。これからも、彼らしく人生を楽しんでくれたらそれで十分、と思う私です。

最後に、都城高専創立60周年誠におめでとうございます。親子でこの素晴らしい節目の年に立ち会えたことを本当に嬉しく思います。この学校で出会った方々や出来事、すべてのご縁に感謝です。最高の高専生活10年間でした。ありがとうございます。

話が違う～！

物質工学科 5年 山下 大樹

息子たちから「クリスマスプレゼント～…」と催促っぽく言われると、「うちは仏教やからクリスマスは関係ない」と一蹴して源を育てた父です（笑）さらに野球一家の山下家。彼本人も幼稚園時からグローブとバットを手に育ちました。小・中学も当然のように野球。私自身が学童野球の監督をしていた事もあり、息子たちはみんな教え子でもあります。指導する際「考えなさい」「自分の思ったことを言葉にして答えなさい」「分りませんでも答えである」父であり監督でもある私はそう指導してきました。中学3年生の夏、高校野球をどこですのかを決める時期、私の中で彼は地元の甲子園を狙える高校に行き、野球するものだと思っていましたし、そう仕向けていった自覚はあります。ところが彼の答えは「もう野球はしない。都城高専に行って勉強する」というもので、ショックだった事を覚えています。同時に自分の考えを持つようになり、その思いをはっきり言えるようになったのだな～と感慨深かった事も覚えています。受験に向け勉強に励む彼を応援しながらも、野球する姿が見られなくなるな～と切り替える日々が続きました。入学式を迎え、その頃には「朝から晩まで勉強してこい！」と完全に切り替わっていた入学2日後、彼からの電話「お父さん、俺野球するわ～。1年生に経験者が10人いて、みんなで野球部に入るわ～」おいおいちょっと待てと。話が違うやないか！勉強を頑張るという話で都城高専じゃなかった？今現在の彼そのものである「ノリと勢い」に完全にやられました。なんだかモヤモヤしながら高専野球部の応援に行くと笹谷先生と武田先生の雰囲気

気に和まされ、上級生や同級生の保護者皆さんの人の好きが心地よく、何より1年生の粒ぞろいに驚きました。ひょっとすると21世紀枠が狙える！指導者目線で見ても楽しみなメンバーが揃ったと急にわくわくし始め、高城高校と合同チームで迎えた1年生大会。かなり格上の小林秀峰高校に2-1で競り勝ったのです。彼に手玉に取られ、気持ちの切り替えに要した時間も何のその！期待が大きく膨らむ1勝に興奮しました。ですが、やはり高専野球部。次戦の都城高校にコールド負け・・・2試合連続の金星とはいきませんでした。何か起してくれるじゃないだろうかと思わせてくれるメンバー達。先生方やマネージャー、いつも楽しい保護者の皆さんとノリと勢いに乗った私。とうとう開幕した3年生最後の夏、各チーム紹介の動画がサンマリンスタージアムのバックスクリーンに映し出され、（都城高専～）…ただただ異質（笑）。そんな高専野球部がやってくれました。13年ぶりの夏1勝！サンマリンでの校歌斉唱。感動しました。これはもしかして！甲・・・！と両の拳を強く握りしめ臨んだ2回戦。コールド負け・・・悔しかったし、楽しかった。こんな感情になろうとは思いませんでした。話が違う～！お世話になりました。ありがとうございました。

幸せの扉。その先へ

建築学科 5年 川野 希

彼女に問う。
進む道が決まりましたか。
自分の思うような学生生活でしたか。
迷わず“はい”と答えるだろう。

希望に満ちた笑顔で入学した5年前。まだ昨日のように感じられる。入学式でお友達と写真を撮って帰ってきた時、ああもうあなたは大丈夫。私の役目は終わったと感じた。

カウンセラーの先生に、人前では一生話せないかもしれないと言われた小学生時代。
素敵な先生と出会い自分を表現する事を覚えた中学生時代。

こんな未来が待っているとは思わなかっただろう。
高専に進み、幸せの扉が開いた。

まだまだ思ったことが言葉にできない場面もある。けれど、何事にも積極的に取り組んだ5年間。勉強はもちろん遊びに部活にバンド。想像以上の行動力を身につけた。

家ではあまり多く話すことはなかったが、特に建築に関する事は一生懸命取り組んでいたように思う。

締め切りギリギリまで図面を描いた日も、夜中まで模型を作った日も、建築を学ぶものならば誰も通る道だろう。しかし建築の仕事に就く以上締め切りは一生付き纏うものでもある。家ではそんな話を幾度とした記憶がある。でもそれだけではない。喜びや感動もそれ以上にあることを伝えたい。

高専で彼女は先生方から多くの事を学び、生涯の友に出会った。
学校に行きたくない、部活に行きたくないと言った事は5年間で一度もなかった。（思っいても私に言えなかっただけかもしれない。）

今考えると自由な校風や友人たちの優しさが、彼女の居場所をつくってくれていたのだろうと思う。

コロナが収束した昨年彼女は9000キロの旅に出た。自由な旅だ。自分でコソコソとお小遣いを貯め、私に手紙を書いてきた。海外に行かせて欲しいと。自分で計画を立て、好きな場所に行き建築を見て回った。その姿は頼もしく真剣そのものだった。その経験を通じて道は開けたのだろうか。

私は見守ることしかできない。自由に生きる彼女をそっと見守る。
それがきっと彼女にとって心地よい。

将来の夢は海外で建築の仕事に就く事。

その自由な発想でクライアントの心に届くデザインを世に残してほしいと願う。

自信に満ちた彼女は何を思い今日ここにたっているだろうか。
まだまだ、未熟な彼女を陰でそっと応援していこう。
自分の好きな道に進んでゆく姿を。

これまで母を楽しませてくれてありがとう。
そして、卒業おめでとう。

感謝を忘れず。その先へ。
これからの人生も幸せで溢れますように。

旧学生会長挨拶

『皆さんへ』

物質工学科 5 年 山下 源



皆様、こんにちは。

私が学生会長を務めさせていただいたこの1年間、本当に光栄でした。皆さんと過ごす日々は、高専生活をより豊かにし、成長の機会に満ちていました。この場をおかりして、感謝の気持ちと挨拶を述べさせていただきます。

学生会長としてまた、学生会長になるまでに、多くの人に支えてもらってきましたが、その中で、視えないもの、形のないものにすごく成長させてもらいました。入学し、学校を引っ張る先輩方に憧れを抱き、自分もそうなれるようにと、数々の行事で経験を重ね、大きく成長することができました。人は考えることに優れており、やることに目的・目標を持つべき生き物だと思います。私の目標が憧れの先輩であったように、在校生にとって私もそのような先輩になれていれば嬉しいです。人としての成長には憧れや経験などといった視えないものや形のないもののようにより十人十色の大きさ、重さ、色を持つものが大きく作用していることを、学生会長を通して学ぶことができました。

これまで関わってくださった皆さんへ。皆さんの温かい支えがあり、1年間、学生会長を務めることができました。学生会としましては、高専全体の他クラス、他学年間の交流を生み、学生たちが自分自身の学生生活をより豊かにできる場を提供することを目指し、様々な意見を受け止め、実現に向けて努力してまいりました。これからも、新しい学生会が更なる発展と進化を遂げられるように、引き続き皆さんのご協力をお願いします。

最後に、新しい学生会長にメッセージを送ります。貴方には学校を更に向上させる知性と行動力があると思っています。才能・可能性を秘めた学生全員を導き未だかつてない学校としての団結を築き上げてください。

今までのご支援、本当にありがとうございました。学生会長としての任期を終えますが、高専の発展と皆さんの幸せを心より願っています。お世話になりました。

新学生会長挨拶

『これから』

機械工学科 4 年 種子田 峻聖



この度、新学生会長に就任いたしました種子田峻聖です。まず初めに、前学生会長の山下源先輩をはじめ、前学生会役員の皆様の多大なるご尽力に心より感謝申し上げます。1年間にわたり、学生生活を支えてくださった皆様の努力のおかげで、私たちの学園生活は、より充実したものになりました。本当にお疲れ様でした。そして、新たにスタートする学生会を代表し、改めて感謝の意を表します。

さて、私は今年20歳を迎えます。思い返すと、ついこの間まで、3DSを手に公園で遊んでいた少年だったような気がします。時の流れの速さに驚かされると同時に、自分がいよいよ大人としての責任を担う年齢に近づいたことを実感しています。そのような節目の年に学生会長という重要な役割をお任せいただけたことに感謝し、その責務を全うする覚悟を持っています。

学生会長として、私は学校を全力で盛り上げていきたいと考えています。その一環として取り組みたいのが、季節ごとの企画の実施です。現在も体育祭や文化祭、クラスマッチなど多くの行事がありますが、さらに新しい企画を増やすことで、学校生活はより楽しい

ものになるはずです。これまで高専祭実行委員長として培った企画力を活かし、学生全員が「楽しかった」と思えるようなイベントを実現していきたいです。また、このイベントの運営を学生にも協力していただくことで、学年やクラスを越えた交流を促し、学生同士がより親密な関係を築けるような機会も提供したいと考えています。

私の1年間の目標は、『大人になって思い出す学校生活』を実現することです。これは、私たちが成長してさらに大人になったとき、この1年間の思い出をもう1度味わいたい、戻りたいと思えるような学校生活を作りたいという思いを込めています。

最後に、学生会長として全力を尽くすことをお約束いたします。皆様のご協力と温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

体育競技会

10月31日（木）に体育競技会を開催しました。当日は心配された雨の影響もほぼなく、応援演舞を含めて、学生が様々な立場で躍動し、各競技とも大変盛り上がりしました。

各学科が放課後や休日に多くの時間をかけて、熱心に練習を重ねてきた応援演舞には、観覧していた学生・教職員や来場者から惜しみない拍手が送られました。また、今年度も演舞の録画配信を行い、当日観覧に来ることのできなかった保護者等にも楽しんでいただけるようにしました。

競技の部総合優勝は機械工学科、応援演舞の部優勝は物質工学科、看板の部優勝は機械工学科でした。機械工学科は競技の部、看板の部ともに昨年に続き2年連続優勝を果たしました。



応援演舞（機械工学科）



応援演舞（電気情報工学科）



応援演舞（物質工学科・優勝）



応援演舞（建築学科）

高専祭

11月2日（土）、3日（日）に、高専祭を開催しました。

今年のテーマは「FULLSWING」。最大限の力を発揮し挑戦するという意義が込められています。文化祭実行委員をはじめ局員全員が全力で努力し、失敗を恐れずに挑戦し続けることで今回の高専祭を作り上げ、学内だけでなく地域のみなさんとも関係を築き、高めあえるよう準備を重ねました。今年度も保護者や学外者の入場制限を設けずに開催することができ、すべてのイベントにおいて自由に観覧していただくことができました。1年生は合唱、2年生お化け屋敷、3年生学科開放、4年生研究発表を始めとする各種イベントやコンテストを実施しました。たくさんのキッチンカーの出店や後援会によるカレーうどんの無料配布も行われ、長い行列ができました。閉会式後には「打ち上げ花火」を行い、学生や教職員はグラウンドで打ち上げられた大きな花火を間近で見え楽しめました。

今年度の各イベントでは、1年生合唱は物質工学科、2年生お化け屋敷は電気情報工学科、4年生研究発表は機械工学科が、それぞれ最優秀賞を受賞しました。



イベント・コンテスト（ダンス）



1年生合唱



4年生研究発表

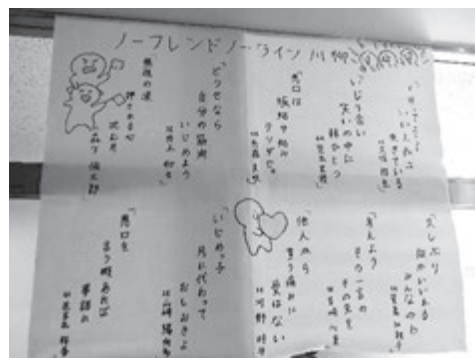


閉会式

【いじめ防止週間】いじめ防止川柳大会

11月30日（木）から12月5日（木）は、本校の令和6年度いじめ防止週間でした。

今年度のいじめ防止週間では、5.7.5で作った川柳を募集する「いじめ防止川柳大会」を実施しました。12月11日（水）の学生総会において、学生から応募された川柳から選ばれた最優秀賞が発表されました。今年度の最優秀賞は、5年建築学科の花牟礼桜香さんの作品『悪口を言う暇あれば 夢語れ』が受賞しました。



最優秀賞 5A 花牟礼 桜香

高専ロボコン2024 地区大会

10月13日（日）に、満員の来客を迎えて早水公園体育文化センターにてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024九州沖縄地区大会が開催され、今年度は本校が運営を担当しました。

今回の競技名は「ロボたちの帰還」。複数台のロボットがボールとボックスを回収する対戦型競技です。本校からは、都城Aチーム「ねこ発シャー」と都城Bチーム「ぶっとび！ベジタブルs」が参加しました。両チームとも他に類のないユニークなアイデアでロボット製作に挑みましたが、競技中にその性能を十分に披露することができず、都城Aチームは、1勝したものの予選ラウンドでの敗退となりました。一方、予選順位3位の都城Bチームは、決勝トーナメントへ進みました。この都城Bチームのマシンは、最初の打ちだし機構の精度がよく100点を連発して会場を沸かせましたが、準優勝の熊本Bチームに敗れベスト4で敗退となりました。

最後の表彰式で都城Aチームは、ユニークなアイデアが認められ協賛企業のマブチモーター株式会社から特別賞をいただき、Bチームもデザイン賞を受賞しました。



Aチーム「ねこ発シャー」



Bチーム「ぶっとび！ベジタブルs」



選手宣誓



表彰式

学内トピックス

第12回都城高専おもしろ科学フェスティバル

令和6年9月15日（日）、本校において、「第12回都城高専おもしろ科学フェスティバル」を開催しました。本イベントは、小中学生を中心とした未来ある子ども達に、科学のおもしろさやものづくりの楽しさを伝えることで、将来地元企業や産業界等で活躍できる技術者の育成に貢献することを目的に実施しております。午前・午後合わせて988名の親子にご参加いただき、各ブースにおいて、さまざまな実験・工作などのものづくり活動に親しんでいただきました。



（ブラックホールをボールあそびで理解しよう）



（エコランカーを体験してみよう！）



（魔法のメスシリンダー）

高千穂寮トピックス

入寮式

4月7日（日）に新入寮生の入寮式を行いました。入学式に引き続き、第1体育館で開催しました。新入寮生と保護者に向けて、校長・寮務主事・寮生会長によるあいさつ及び寮生会役員・寮関係教職員による自己紹介等を行いました。



田村校長あいさつ



寮生会長あいさつ

新入寮生歓迎会



1年生による自己紹介



2年生による出し物の様子（漫才）

4月24日（水）に新入寮生計63名の歓迎会を行いました。4・5年生の寮生会役員からは高千穂寮周辺の「わたしの好きな店」の紹介があり2・3年生男子からは劇やコントなど、歓迎の出し物披露がありました。新入寮生は堂々とした様子で自己紹介を行いました。

高千穂寮トピックス

寮祭

5月12日（日）に寮祭を開催しました。体育館ステージでのバンド演奏やダンスの催しのほか、コーラ早飲み競争や借り物競争など、またキッチンカーが出店され1日を楽しみました。



よ〜く狙って！射的



バンド演奏



借り物競争の様子



閉会 寮祭実行委員のあいさつ

寮マッチ

6月30日（日）本校体育館において寮マッチを開催しました。

今回はバレーボールを実施し、熱戦が展開され、大いに盛り上がり16チームを4チームずつ4グループに分けて予選リーグを行いました。各グループリーグから勝ち上がった4チームによる決勝トーナメントは、どの試合も白熱した試合で、声援や歓声も上がってとても盛り上がっていました。学年性別問わずたくさんの人と交流する機会になりました。



準備体操



白熱したプレー続出！

花火大会

11月9日（土）に花火大会を実施しました。

今回の花火大会は、手持ち花火に置き花火を追加して実施し、季節外れの花火大会ではありましたが、大いに盛り上がりました。



静かな夜にきらめく花火



空気が澄んでいて、とてもキレイです

新2棟が完成しました

高千穂寮に新たに第2棟が完成し、62室の居室（定員100名）が整備されました。4月から女子寮生を受け入れています。令和7年4月には、現在建設中の第3棟が完成する予定です。



居室の様子



ラーニングスペース

学生表彰

第61回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

◎陸上競技

男子100m	頼 宏忠 (2 C)	第1位	11秒39
男子三段跳	種子田 峻聖 (4 M)	第3位	12m15
女子200m	下瀬 彩音 (4 E)	第2位	28秒28
男子4×100m リレー	阿久比 俊滋 (1 M)、種子田 峻聖 (4 M) 今西 陽向 (3 M)、頼 宏忠 (2 C)	第2位	44秒20
男子4×400m リレー	内田 風聖 (2 C)、柳田 翔太 (2 M) 今西 陽向 (3 M)、種子田 峻聖 (4 M)	第1位	3分32秒63
女子4×100m リレー	下瀬 遥香 (1 C)、本目惺 流七 (2 C) 下瀬 彩音 (4 E)、相星 心夢 (1 M)	第1位	54秒66

◎水泳競技

団体	水泳部	準優勝	
男子800m自由形	白谷 竜琥 (4 E)	第1位	9分13秒61
男子400m自由形	白谷 竜琥 (4 E)	第1位	4分25秒98
男子100m平泳ぎ	池之上 真廣 (2 C)	第1位	1分14秒12
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (4 A)	第1位	1分02秒76
男子100mバタフライ	實方 亮仁 (2 E)	第3位	1分03秒53
男子200mバタフライ	津留 昇希 (3 M)	第3位	3分15秒93
男子200mメドレー	池之上 真廣 (2 C)	第2位	2分27秒04
女子100m自由形	村山 世莉奈 (5 C)	第3位	1分12秒56
女子100mバタフライ	植田 旬美 (4 A)	第2位	1分31秒34
女子100m背泳ぎ	植田 旬美 (4 A)	第2位	1分26秒35
男子4×100mフリーリレー	津留 昇希 (3 M)、池之上 真廣 (2 C) 實方 亮仁 (2 E)、白谷 竜琥 (4 E)	第3位	4分09秒41
男子4×100mメドレーリレー	西 優輝 (4 C)、池之上 真廣 (2 C) 實方 亮仁 (2 E)、白谷 竜琥 (4 E)	第2位	4分30秒27
女子4×50mフリーリレー	植村 心花 (2 C)、植田 旬美 (4 A) 尾崎 琳 (4 E)、村山 世莉奈 (5 C)	第2位	2分14秒10
女子4×50mメドレーリレー	植村 心花 (2 C)、植田 旬美 (4 A) 尾崎 琳 (4 E)、村山 世莉奈 (5 C)	第3位	2分33秒58

◎柔道競技

団体	柔道部	優勝	
男子個人戦73kg級	岩満 琥太郎 (2 C)	優勝	

◎卓球競技

女子ダブルス	後藤 円華 (4 C)、新村 夏梨 (4 C)	第3位	
--------	-------------------------	-----	--

◎ハンドボール競技

ハンドボール部	準優勝		
---------	-----	--	--

◎サッカー競技

下酔尾 淳矢 (5 A)	最優秀選手賞		
--------------	--------	--	--

第10回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	優勝	
女子団体	弓道部	第3位	
男子個人の部	前田 泰雅 (3 E)	第2位	
女子個人の部	荒川 琴海 (3 C)	第3位	

学生表彰

第11回全国高等専門学校弓道大会

◎弓道競技

男子団体

弓道部

準優勝

令和6年度宮崎県高等学校総合体育大会

◎水泳競技

水泳男子50mバタフライ

實方 亮仁 (2E)

第3位

28秒58

水泳男子400m個人メドレー

池之上 真廣 (2C)

第2位

5分20秒79

◎少林寺拳法

女子自由単独演武

荒場 空 (3A)

第2位

令和6年度都城市スポーツ賞

◎水泳競技

個人の部

白谷 竜琥 (4E)

優秀賞

◎弓道競技

団体の部

弓道部男子

優秀賞

第7回「発酵を科学する」アイデア・コンテスト

テーマ「日本のおコメにあう、
愛すべき郷土の発酵おかず」

甲斐 涼葉 (3C)、森下 あかり (3C)

優秀賞
(発酵サイエンス賞)

テーマ「日本のおコメにあう、
愛すべき郷土の発酵おかず」

坂下 優里 (3C)、津奈木 美咲 (3C)

特別賞
(参加者の投票)

テーマ「日本のおコメにあう、
愛すべき郷土の発酵おかず」

森山 隼太 (5C)、山下 大空 (5C)

おいしかったで賞

第12回算数・数学の自由研究コンクール

増森 涼太 (3E)

奨励賞

第69回宮崎県吹奏楽コンクール

大学の部

吹奏楽部

金賞

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024九州沖縄地区大会

ぶっとび! ベジタブルs

デザイン賞

ねこ発シャー

特別賞
(マブチモーター株式会社)

2024ロボットアイデア甲子園・全国大会

西村 瑠翔 (3M)

奨励賞

令和6年度第15回高校生の「建築甲子園」宮崎県予選

チームYIIIK

宮本 優希和 (3A)、馬場 菜月 (3A)

野村 莉音 (3A)、川越 柊音 (3A)

綿屋 小羽音 (3A)、吉原 香菜 (3A)

松元 翠珠 (3A)、山口 陽毬 (3A)

最優秀賞

チーム群青

荒場 空 (3A)、山崎 ふわり (3A)

志々目 かれん (1A)

優秀賞

私の「推し本」発表会

高校生の部 代表

荒場 空 (3A)



【学生の海外渡航安全対策への取り組み】

学生及び保護者等に対する渡航前の危機管理、安全対策の取り組みとして、渡航中の安全に対する心構えや、危機管理意識の重要性について理解を深めるための「海外渡航安全管理マニュアル」と「海外渡航する学生のための安全の手引き」を今年度新たに作成し、渡航前の心構え、渡航先でトラブルに遭った際の対策等に係る派遣前オリエンテーションを実施しています。

併せて、学生の意識啓発に係る取り組みの一つとして、本校国際交流センターWebサイトを一新し、「渡航の準備」、「海外渡航時の緊急連絡（※海外渡航中にトラブル（事件・事故・災害等）に遭ったら）」、「学内手続き（学生課）」、「トラブル対策と海外旅行保険」、「在日大使館・奨学金・留学サポート情報」等を掲載しています（<https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/intercen/>）。留学、海外研修、国際学会やシンポジウムに参加を検討される学生及び保護者の皆様は一度ご確認ください。

【世界に目を向けて一歩踏み出す勇気】※本校国際交流センターWebサイトの一部を再掲しています

01 Your own original work

実践力が高い人は世の中にある様々な情報を「自ら」の手でつかみとります。そして、自ら得た「情報」と、様々な「経験で得られた知識」に基づいて、即座に自分のおかれている状況を分析して次のStepに移すことができます。経験で知識を得るためには、何事に対しても失敗を恐れず「柔軟に前向きに心素直に」自分の道を歩んでいくことです。留学をすると多様な考え方を受け入れることができるようになり、広い視野で世の中を見渡せることができるようになります。必然的にChallenging spirit・Mental toughness・Flexibilityを身につけることができるからです。そして、世界中の美しい景色・美しい香り・美しい人々の心等に触れると感受性が高まり、想像力が豊かになります。

02 Networking with people

高専での学生生活から少しだけ世界に目を向けて一歩踏み出したとき、そこには多様な言語や異なる文化、異なる価値観を持つ人々が存在します。多様な国の人たちと交流をして意思疎通を図るときに大切なことは、人との関わり方です。まずは「相手の気持ちや考えを尊重」してから自分の意思を伝えることを心掛けてください。人は一人では大きなことを成し遂げることはできません。だからこそ、世界に目を向けたときには、高専や日本だけでなく、世界中の人々とのつながり（Networking）が大切になります。もしかしたら、留学で築き上げた人脈が「Global entrepreneurship」に発展して、協働して課題解決に取り組むことにつながるかもしれません。

03 Preparation for studying abroad

留学をするために必要な準備は

① 計画（目的）を立てる

【なにか学ぶために留学をするのか（せっかく留学するのに語学だけでいいのかなあ??）】

② 課題を発見する

【留学をするために必要な、自分に足りないことはなに??】

③ 課題を解決する

【足りないことを克服するために、どのような行動をおこせば解決できる??】

④ 心と身体を管理する

【行動するときに、自分の心と身体のケアはどのように管理する??】

等が挙げられます。

【その他の取り組み】

01 都城高専および鹿児島高専の異なる文化情景を持つ留学生同士が交流し経験を共有することで、国際的な友情を育み、両校の国際化を推進する取り組みを行っています。

02 「日本型高等専門学校（KOSEN）」の導入支援にあたって、モンゴル、タイ、ベトナムの3か国への「KOSEN」の導入支援に向けた取り組みを九州圏内の9高専と情報共有・交換を行いながら進めています。

03 生産デザイン工学プログラム等に係る国際的な学会やシンポジウムへの積極的な参加を促進しています。

04 次年度開設に向けた国際交流関係の広報資料を作成しています（英語版コンテンツ）。

少年少女科学アカデミー

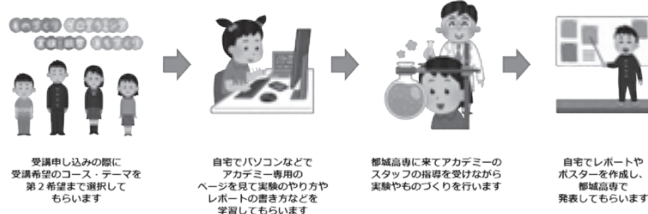
都城高専 少年少女科学アカデミーの取組み



実験や、ものづくりに興味のある人、将来、技術者（エンジニア）になって、宮崎、そして日本、さらには世界で活躍したいと考えている小中学生をサポートするのが、少年少女科学アカデミーです。本事業は、平成30年度「KOSEN（高専）4.0」イニシアティブ事業において「次世代を担う少年少女科学アカデミーの設立～グローバル人材育成への架け橋～」の事業名で採択されました。この事業では、小中学校と都城高専の架け橋となる「少年少女科学アカデミー」を設立し、小中学生の早期技術者教育およびグローバル人材育成のための小中学校・高専一貫教育システムを構築し実施することを目的としており、毎年開催しています。少年少女科学アカデミーには、「ベーシックプログラム」と「アドバンスプログラム」の2つのコースがあります。

ベーシックプログラム

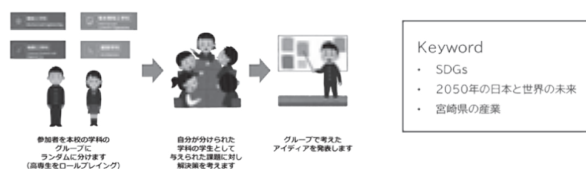
ベーシックプログラムは小中学生を対象とし、家庭学習用e-learningコンテンツ、実験・実習用教育教材及び本校の教育研究基盤を活用し、本校学生と連携して高度な自由研究のサポートを行う。



令和6年度のアドバンスプログラムでは、「宮崎 移住計画～高専の技術で10年後も20年後もずっと安心して暮らせる宮崎を創ろう～」というテーマで9月22日・23日に実施しました。県内各地より11名の中学生が参加し、TA学生9名及び教職員スタッフと共に協力して2日間かけて、高専の技術を使ったアイデアを出し合いました。そして、プログラムの最後にはそれぞれの班が考えたアイデアを発表し、最優秀賞・優秀賞を選出しました。参加した中学生からは「宮崎や日本、世界で取り上げられている課題を

アドバンスプログラム

アドバンスプログラムは中学生を対象とし、「SDGs」を基盤として、研究者・技術者の視点で自主性や協調性、課題解決力を身につけるためのアイデアを生み出すトレーニング（アイデアソン）を行う。



「高専の技術を使って」解決するということを考えてことがなかったので、チームの人とアイデアを出しつつ、「高専の力でできること」にまで思考を深められるとても良い経験になった。」「今まで知らなかった考え方を知ることができてとてもうれしかった。高専に行きたいという思いがかきたてられた。また受講したい。」などの意見が寄せられました。また、TAとして参加した学生からも「中学生に対しては高専に入るきっかけや学生に対しては新鮮な意見を取り入れる良いキッカケになったと思うので、これからもこういう機会を増やしていけば良い循環が生まれるのではないかと思います。」「脳みその作りがまだ若い中学生の皆さまと関わることができて、新鮮で柔軟な思考がかなり刺激的だった。アイデア出しからスライド作成まで積極的に参加して、自分たちだけで動いてくれたので、とっても感心しました。」などの意見が寄せられ、本校学生にとっても学びを得る良い機会になったと思います。



このように、少年少女科学アカデミーでは事業を通して、将来の技術者の裾野拡大を図るとともに、「本校にマッチした志願者の安定確保」「本校学生の指導力向上」「宮崎県における高専教育の理解と本校の重要性の向上」を目指して今後も活動を続けていきたいと思います。

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

（令和6年12月末現在）

本 科			
機械工学科	○西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社 ○トーテックアメニティ株式会社 ○株式会社JALエンジニアリング ○三菱地所コミュニティ株式会社 ○メタウォーター株式会社 ○日本電設工業株式会社 ○ミネベアミツミアセクソリューションズ株式会社 ○株式会社日立ビルシステム ○ニプロ株式会社 ○株式会社SCREENグラフィックソリューションズ 久御山事業所 ○トータルテクニカルソリューションズ株式会社 ○三菱ケミカル株式会社 ○株式会社タマディック ○SUBARUテクノ株式会社 ○パナソニック インダストリー株式会社 ○三菱重工業株式会社 ○株式会社ロッテ ○本田技研工業株式会社 ○東レエンジニアリング株式会社 ○千葉大学 ○宮崎大学 ○熊本大学 ○長岡技術科学大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 725 件		
電気情報工学科	○京セラコミュニケーションシステム株式会社 ○株式会社デンサン ○株式会社富士電機 ○ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 ○ウナルステクノロジー株式会社 ○株式会社ファインディックス ○NTTアノードエナジー株式会社 ○宮崎エプソン株式会社 ○株式会社データアプリケーション ○アイ・システム株式会社 ○中部国際空港テクニカルコネクト株式会社 ○株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社 ○エクシオデジタルソリューションズ株式会社 ○株式会社NTTデータ・フィナンシャルテクノロジー ○AJS株式会社 ○株式会社マクスエンジニアリング ○株式会社日立ハイテクフィールドイング ○タイムカプセル株式会社 ○日本オーチス・エレベーター株式会社 ○富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 ○株式会社林兼産業 ○九州工業大学 ○熊本大学 ○宮崎大学 ○鹿児島大学 ○豊橋技術科学大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 754 件		
物質工学科	○日本たばこ産業株式会社 ○ヤマエ食品工業株式会社 ○独立行政法人国立印刷局 ○花王株式会社 ○東京エレクトロン株式会社 ○ラピスセミコンダクタ株式会社 ○田中貴金属工業株式会社 ○旭化成株式会社 ○サントリーホールディングス株式会社 ○株式会社ユー・エム・アイ ○東京瓦斯株式会社 ○一般社団法人 日本血液製剤機構 ○ENEOS株式会社 ○帝人ファーマ株式会社 ○富士石油株式会社 ○アサヒビール株式会社 ○沢井製菓株式会社 ○Daigasガスアンドパワーソリューション株式会社 ○第一三共プロファーマ・ケミカルファーマ株式会社 ○株式会社田中貴金属グループ ○東京エレクトロンFE株式会社 ○太陽ファルマテック株式会社 ○日鉄環境株式会社 ○DM三井製糖株式会社 ○南九州大学 ○群馬大学 ○豊橋技術科学大学 ○長岡技術科学大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 343 件		
建築学科	○大和ハウス工業株式会社 ○五洋建設株式会社 ○株式会社ザイマックス九州 ○株式会社TAKイーヴァック ○戸田建設株式会社 ○株式会社ユニティー ○株式会社アイ工務店 ○ダイキンエアテクノ株式会社 ○株式会社九電工 ○株式会社フジタ ○株式会社ユー・エム・アイ ○東レ建設株式会社 ○株式会社イリア ○都城市役所 ○日本国土開発株式会社 ○株式会社ザイマックス ○京セラ株式会社国分工場 ○鹿児島県庁 ○株式会社ザイマックス関西 ○株式会社スペース ○ダイキンHVACソリューション九州株式会社 ○株式会社横河システム建築 ○オリックス・ファシリティーズ株式会社 ○東京都立大学 ○熊本大学 ○都城高専専攻科 求人件数 計 248 件		
専 攻 科			
機械電気工学専攻	○株式会社LIXIL ○株式会社サザンクロスシステムズ ○NTTコム エンジニアリング株式会社 ○ファナック株式会社 ○三菱電機エンジニアリング株式会社 ○日鉄パイプライン&エンジニアリング株式会社 ○株式会社西島製作所 ○メタウォーター株式会社 ○ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 ○豊橋技術科学大学大学院 ○九州大学大学院	物質工学専攻 ○九州大学大学院 ○奈良先端科学技術大学院大学 ○筑波大学大学院 数理物質科学研究群 ○東北大学大学院 環境科学研究科	建築学専攻 ○極東興和株式会社 ○株式会社FULLCOMMISSION ○株式会社大林組 ○三菱地所コミュニティ株式会社

求人件数 計 1,840 件

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹
作曲 海老原 直

Moderato
mf con spirito

(1)ぎょう うおか んきき はれい 一きわ ゆしね るをに きつう 一りたる 一しえわ 一またし 一のるく みふま

ねるた みきお ねみお とやし おこく 一くにも ああさ おたき 一ぎらに 一つしお 一つきう たこみ

かうや きがま りくき そのり うみし にちま あきか くわた 一がめど るんとて こつひ こどろ ろいく もしゆ きわた よれけ わはき かっよう どうのの ゆこは

めこな はろは ぐとひ くわら まさか 一んのん ままな ななな びびび 一やや 一ぞぞぞ あ

あ こ う せーん み や こ の じょう (2)とた (3)じょう

三
あ あ 高 専 都 城
花 は 開 かん 学 舎 ぞ
広 く 豊 け き 教 養 の
み や ま 霧 島 か た ど り て
ま た 雄 々 し く も 咲 き 匂 う
高 き 岩 根 に 美 し く

二
あ あ 高 専 都 城
心 と 技 術 の 学 舎 ぞ
集 い し わ れ ら 八 百 の
工 学 の 道 極 め ん と
古 き 都 に 新 し き
遠 き 歴 史 を 伝 え た る

一
あ あ 高 専 都 城
夢 は ぐ く ま ん 学 舎 ぞ
心 も 清 き 若 人 の
高 き 理 想 に あ く が る る
峰 々 遠 く 仰 ぎ つ
暁 雲 映 ゆ る 霧 島 の



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1
TEL(0986)47-1107 FAX(0986)38-1508
URL <https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/>

